

調査結果の概要

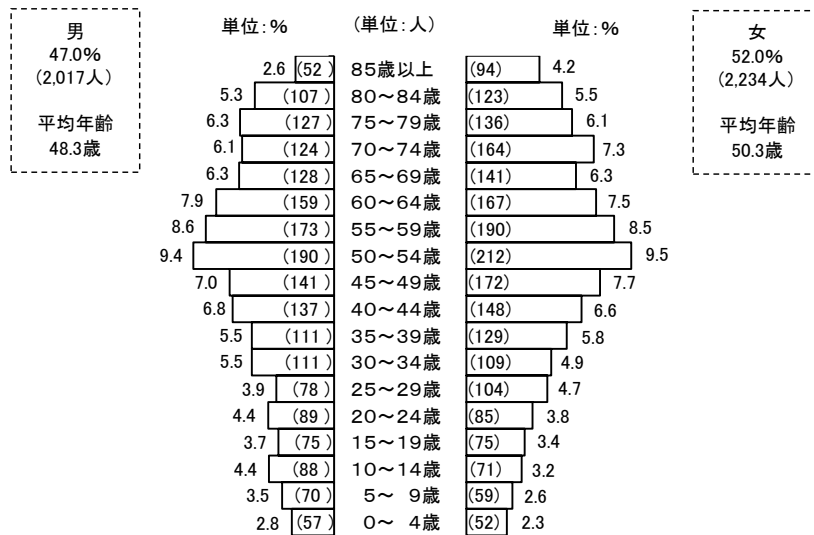
- ・「-」は皆無又は該当数値なしのもの、「*」は該当数値が不詳又は不明なものを示す。
- ・比率の単位は「%」、実数の単位は「人」である。
- ・比率は小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の計と合計は必ずしも一致しない。
- ・令和元年度までは調査員の面接聞き取りによる他計式調査としていたが、今回調査は郵送・インターネットによる自計式とし、調査方法を変更した。そのため、令和元年度以前の調査結果と比較する場合には、無回答を含めた各項目の割合の変化に注意が必要である。

○ 集計対象 2,143 世帯、4,293 人の状況

1 世帯及び世帯員の状況

(1) 性・年齢階級

集計対象者 4,293 人の世帯員の性別をみると、男性 47.0%、女性 52.0%、平均年齢は男性 48.3 歳、女性は 50.3 歳となっている。



(注)・男性47.0%、女性52.0%で合計が100%にならないのは、「その他」を回答した人が28人、性別無回答の人が14人いるため。

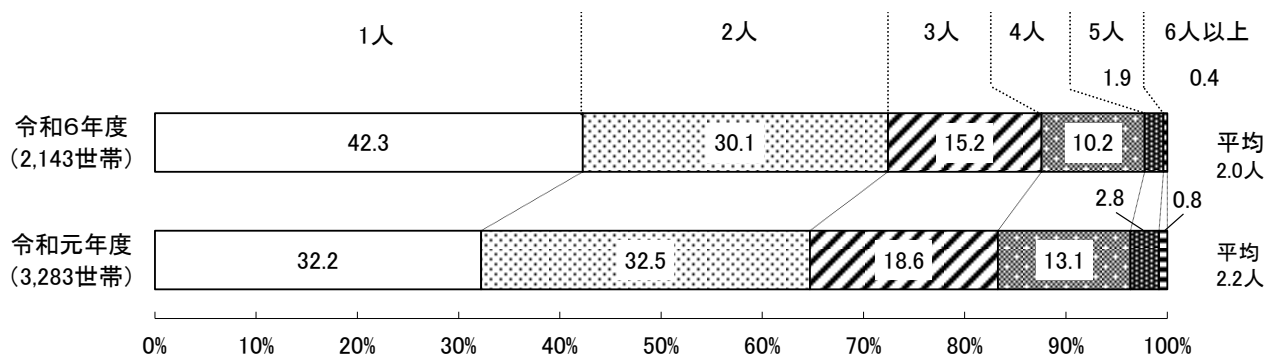
・男性 2,017 人、女性 2,234 人には、それぞれ年齢無回答の人を含むため、内訳の合計と一致しない。

《参考》住民基本台帳による東京都の世帯と人口（令和6年1月1日）（総務局）



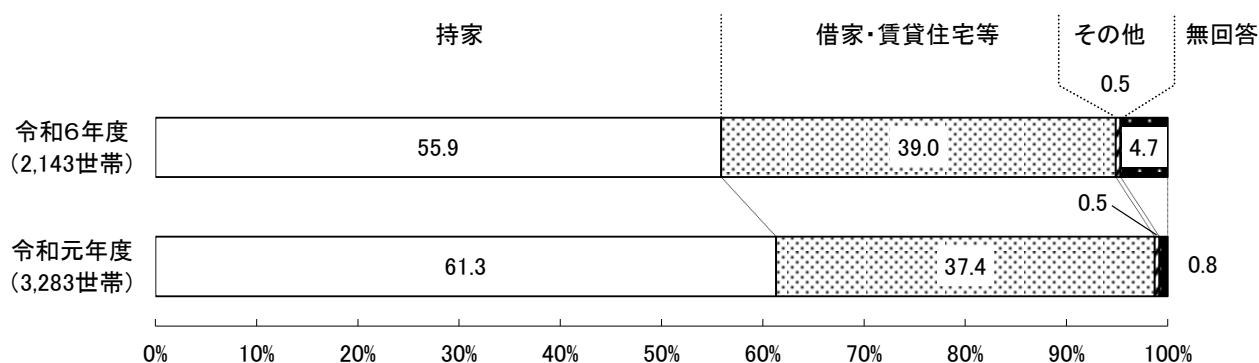
(2) 世帯人員

世帯人員は、「1人」の割合が42.3%で最も高く、次いで「2人」が30.1%となっている。
また、平均世帯人員は2.0人となっている。



(3) 住居の状況

住居の種類は、「持家」の割合が55.9%、「借家・賃貸住宅等」が39.0%となっている。



(4) 世帯員の就業状況

世帯員の就業状況は、就業者が57.0%、非就業者が37.4%となっている。また、就業者の従業上の地位は「正規の職員・従業員」の割合が28.7%で最も高く、次いで「パート・アルバイト」が11.6%、「自営業」が5.8%となっている。

(単位: %)

	総数	就業者	正規の職員・従業員	※1 会社・団体等の役員	※2 パート・アルバイト	派遣社員 労働者派遣事業所の 派遣社員	契約社員・嘱託	その他	無回答	自営業 ※3	非就業者	無回答
令和6年度	100.0 (4,293人)	57.0	28.7	3.4	11.6	1.7	3.7	1.1	1.1	5.8	37.4	5.5
令和元年度	100.0 (7,369人)	55.8	28.9	2.0	10.4	1.2	2.9	1.1	1.8	7.5	42.8	1.5

(注1) ※1は、令和元年度調査では「会社などの役員」としていた。

(注2) ※2は、令和元年度調査では「パート」と「アルバイト」に選択肢を分けていた。

(注3) ※3は、令和元年度調査では「自営業主(雇人あり)」、「自営業主(雇人あり)」、「家族従業者(自家営業の手伝い)」に選択肢を分けていた。

(5) 世帯収入の状況

① 主な世帯収入の種類

主な世帯収入の種類は、「賃金・給料」の割合が53.9%で最も高く、次いで「年金・恩給」が21.6%となっている。

(単位: %)

（単位：％）

	総 数	賃 金 ・ 給 料	事 業 所 得	家賃・ 利子・ 配当・ 地代・	仕 送 り	年 金 ・ 恩 給	生 活 保 護	雇用保 障給付 金・社 会	その 他の 収入	無 回 答
令和6年度	100.0 (2,143世帯)	53.9	4.7	1.6	0.7	21.6	1.1	0.2	1.2	14.9
令和元年度	100.0 (3,283世帯)	59.2	5.8	2.7	0.8	25.6	3.1	0.2	0.6	2.0

② 世帯の年間収入額

世帯の年間収入（令和5年分）は、「300～400万円未満」の割合が12.9%で最も高く、次いで「200～300万円未満」が11.9%、「400～500万円未満」が10.3%となっている。

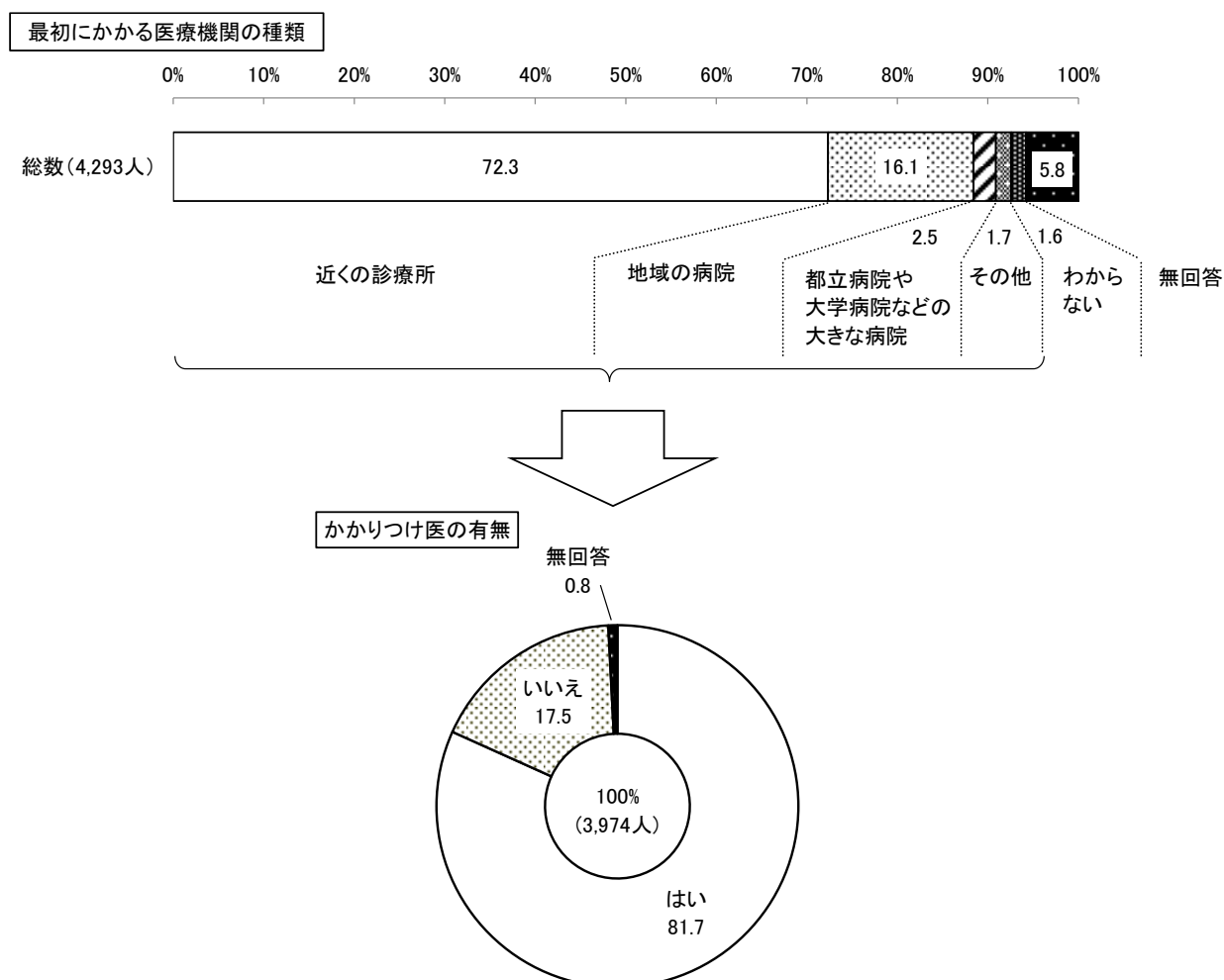
(単位: %)

(単位: %)																				
	総 数	1 0 0 万 円 未 満	1 0 0 万 円 未 満	2 0 0 万 円 未 満	3 0 0 万 円 未 満	4 0 0 万 円 未 満	5 0 0 万 円 未 満	6 0 0 万 円 未 満	7 0 0 万 円 未 満	8 0 0 万 円 未 満	9 0 0 万 円 未 満	1 0 0 万 円 未 満	1 0 0 万 円 未 満	1 0 0 万 円 未 満	1 0 0 万 円 未 満	1 0 0 万 円 未 満	1 0 0 万 円 未 満	1 0 0 万 円 未 満	2 0 0 万 円 未 満	無 回 答
			1 0 0 万 円 未 満	2 0 0 万 円 未 満	3 0 0 万 円 未 満	4 0 0 万 円 未 満	5 0 0 万 円 未 満	6 0 0 万 円 未 満	7 0 0 万 円 未 満	8 0 0 万 円 未 満	9 0 0 万 円 未 満	1 0 0 万 円 未 満	1 0 0 万 円 未 満	1 0 0 万 円 未 満	1 0 0 万 円 未 満	1 0 0 万 円 未 満	1 0 0 万 円 未 満	1 0 0 万 円 未 満	2 0 0 万 円 未 満	
			1 0 0 万 円 未 満	2 0 0 万 円 未 満	3 0 0 万 円 未 満	4 0 0 万 円 未 満	5 0 0 万 円 未 満	6 0 0 万 円 未 満	7 0 0 万 円 未 満	8 0 0 万 円 未 満	9 0 0 万 円 未 満	1 0 0 万 円 未 満	1 0 0 万 円 未 満	1 0 0 万 円 未 満	1 0 0 万 円 未 満	1 0 0 万 円 未 満	1 0 0 万 円 未 満	1 0 0 万 円 未 満	2 0 0 万 円 未 満	
			1 0 0 万 円 未 満	2 0 0 万 円 未 満	3 0 0 万 円 未 満	4 0 0 万 円 未 満	5 0 0 万 円 未 満	6 0 0 万 円 未 満	7 0 0 万 円 未 満	8 0 0 万 円 未 満	9 0 0 万 円 未 満	1 0 0 万 円 未 満	1 0 0 万 円 未 満	1 0 0 万 円 未 満	1 0 0 万 円 未 満	1 0 0 万 円 未 満	1 0 0 万 円 未 満	1 0 0 万 円 未 満	2 0 0 万 円 未 満	
令和6年度	100.0 (2,143世帯)	6.2	9.1	11.9	12.9	10.3	7.7	4.7	4.8	4.3	4.1	4.2	2.9	1.9	1.7	1.1	3.4	2.8	6.1	
令和元年度	(3,283世帯)	4.6	10.8	12.1	12.1	7.9	8.0	6.6	6.4	5.3	4.4	4.1	2.6	1.8	1.5	1.3	2.8	1.7	6.0	

(6) 最初にかかる医療機関の種類とかかりつけ医の有無

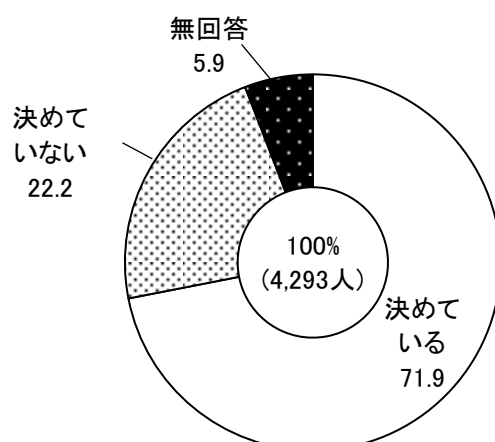
体の不調を感じた場合、まず初めにどの医療機関にかかるか聞いたところ、「近くの診療所」の割合が72.3%で最も高く、次いで「地域の病院」が16.1%となっている。

また、「わからない」と回答した人及び「無回答」を除く3,974人に、その医療機関が普段からかかりつけている医療機関か聞いたところ、「はい」の割合は81.7%となっている。



(7) かかりつけ歯科医の有無

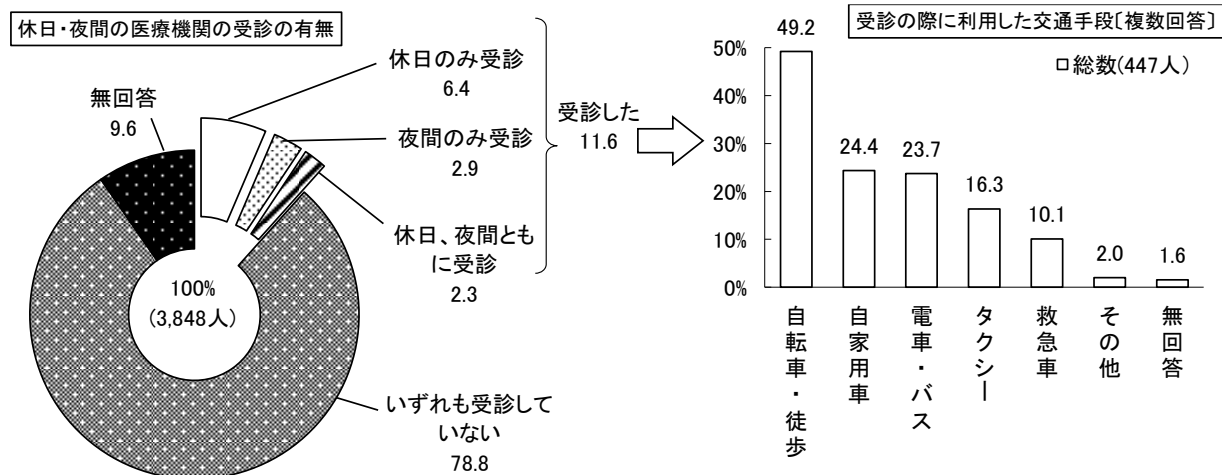
かかりつけ歯科医を決めているか聞いたところ、「決めている」人の割合は71.9%、「決めていない」人は22.2%となっている。



(8) 休日・夜間の医療機関の受診の有無と受診の際に利用した手段〔複数回答〕

過去1年間に医療機関を受診したことのある人(3,848人)のうち、休日・夜間に医療機関を受診した人は、「休日のみ受診」の割合が6.4%、「夜間のみ受診」が2.9%、「休日、夜間ともに受診」が2.3%となっており、これらを合わせた割合は11.6%となっている。

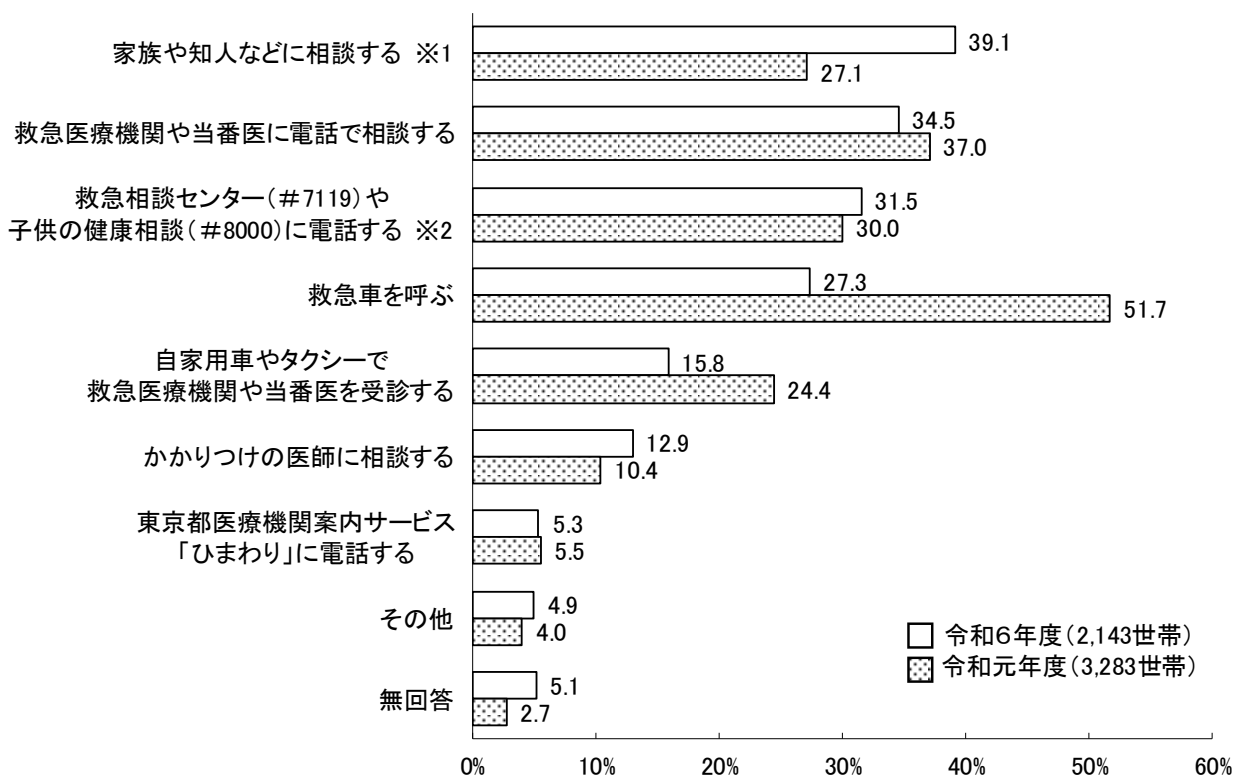
また、休日・夜間に受診した人(447人)に、受診の際に利用した交通手段を聞いたところ、「自転車・徒歩」の割合が49.2%で最も高く、次いで「自家用車」が24.4%、「電車・バス」が23.7%となっている。



(9) 緊急時の対応〔複数回答〕

夜間や休日に自分や家族が急に具合が悪くなったり、ケガをして、どうしていいのか判断に迷った時どうするか、世帯における対応方法を聞いたところ、「家族や知人などに相談する」の割合が39.1%で最も高く、次いで「救急医療機関や当番医に電話で相談する」が34.5%、「救急相談センター(＃7119)や子供の健康相談(＃8000)に電話する」が31.5%となっている。

「救急車を呼ぶ」の割合は令和元年度調査(51.7%)と比べて24.4ポイント減少している。



(注1) ※1は、令和元年度調査では「家族や応援してくれる知人などに相談する」としていた。

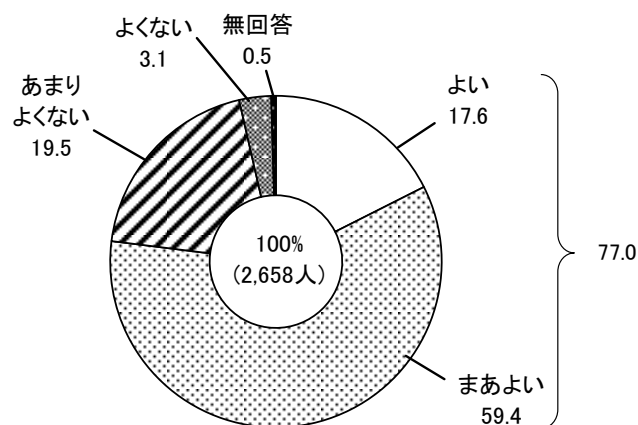
(注2) ※2は、令和元年度調査では「救急相談センター(＃7119)に電話する」としていた。

○ 20 歳以上の世帯員 2, 658 人の健康と医療に関する実態と意識

1 健康状態・食生活の状況

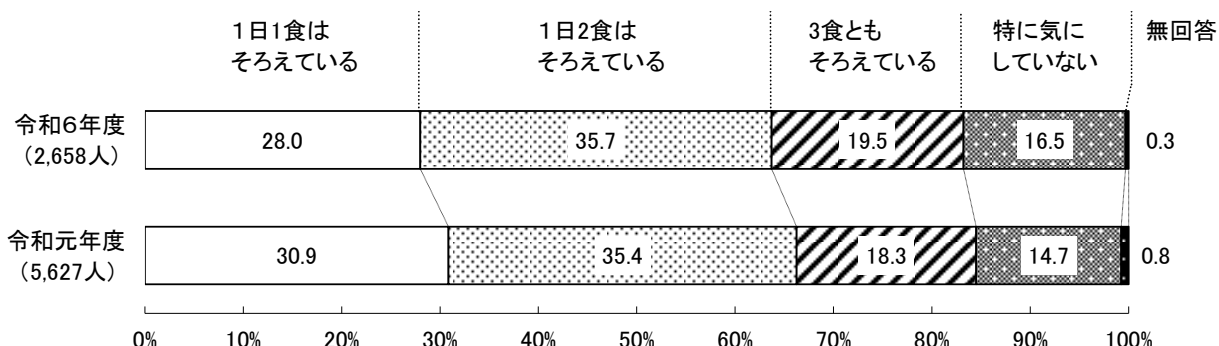
(1) 健康状態

自分の健康状態についてどのように感じているか聞いたところ、「まあよい」の割合が 59.4% で最も高く、次いで「あまりよくない」の割合が 19.5% となっている。「よい」「まあよい」を合わせた割合は 77.0% となっている。



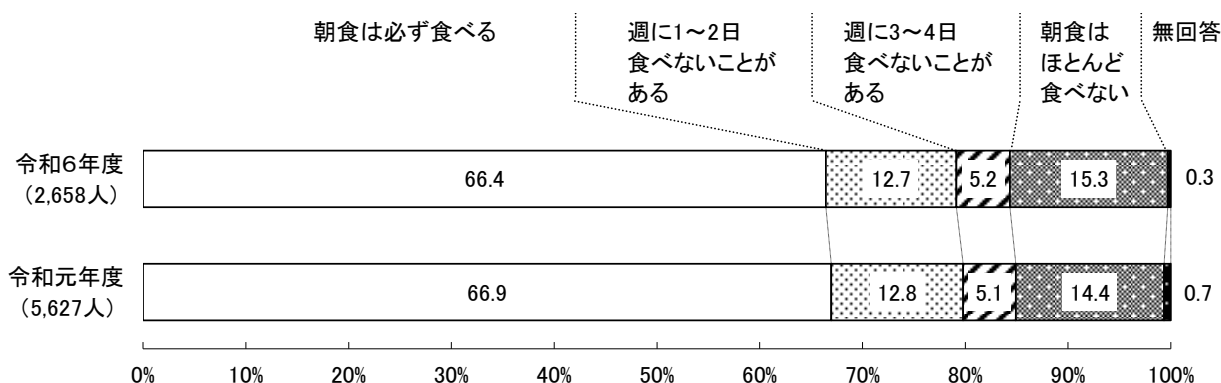
(2) 1 日の食事の栄養バランス

1 日の食事 (3 食) のうち、主食 (ご飯、パン、麺類など)、主菜 (肉、魚、卵、豆腐などの豆製品を使ったおかず)、副菜 (野菜を使ったおかず) をそろえた食事を何回とっているか聞いたところ、「1 日 2 食はそろえている」の割合が 35.7% で最も高く、「3 食ともそろえている」は 19.5% となっている。



(3) 朝食の有無

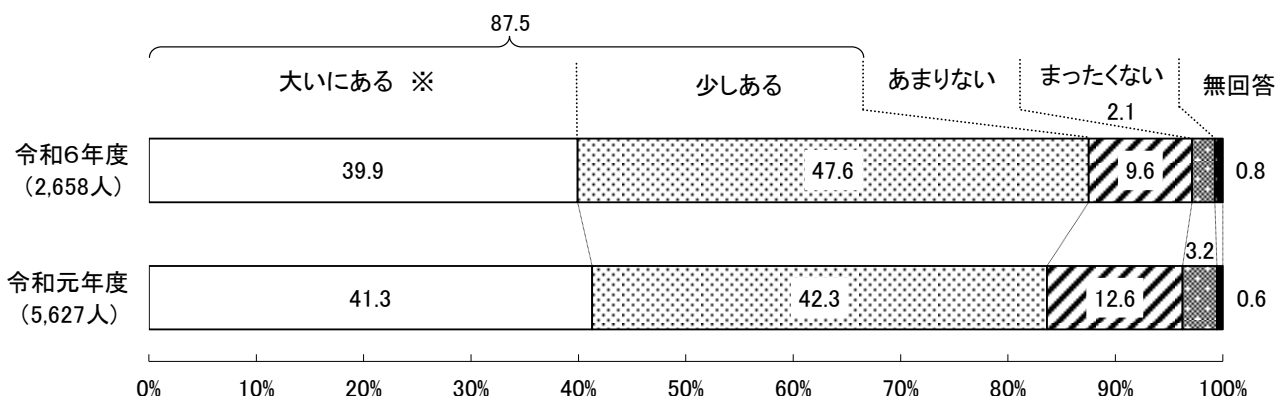
朝食を食べない(欠食する)ことがあるか聞いたところ、「朝食は必ず食べる」の割合は 66.4%、「朝食はほとんど食べない」は 15.3% となっている。



(注) 「菓子、果物、乳製品、嗜好飲料などの食品のみを食べた場合」「錠剤などのサプリメント、栄養ドリンク剤のみの場合」は欠食としている。

(4) 食生活・生活習慣の改善意欲

自分の健康のために、食生活の改善や運動量の増加などの生活習慣をより良い方向にすることに関心があるか聞いたところ、「大いにある」の割合が39.9%、「少しある」が47.6%となっており、これらを合わせた割合は87.5%となっている。



(注) ※は、令和元年度調査では「十分にある」としていた。

2 「日常生活における歩数の増加」と「運動」の状況

(1) 日常生活における歩数の増加

日常生活における歩数の増加のための目標値(※)を達成しているか聞いたところ、「達成している」の割合が39.1%、「達成していない」が60.1%となっている。

※目標値

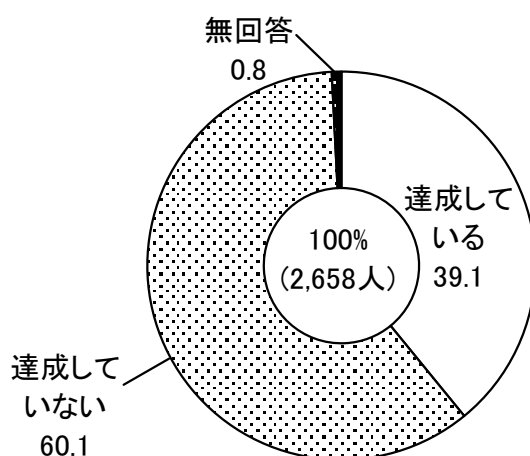
20～64歳 : 男性 8,000 歩、女性 8,000 歩

65歳以上 : 男性 6,000 歩、女性 6,000 歩

(参考) 10 分の歩行で約 1,000 歩に相当します。

なお、「日常生活における歩数」は、主として、労働場面（荷物の運搬等）・家庭場面（掃除をするなど）・移動場面（階段を上るなど）における歩数の総数を指します。

(出典：「健康日本21（第三次）」厚生労働省)



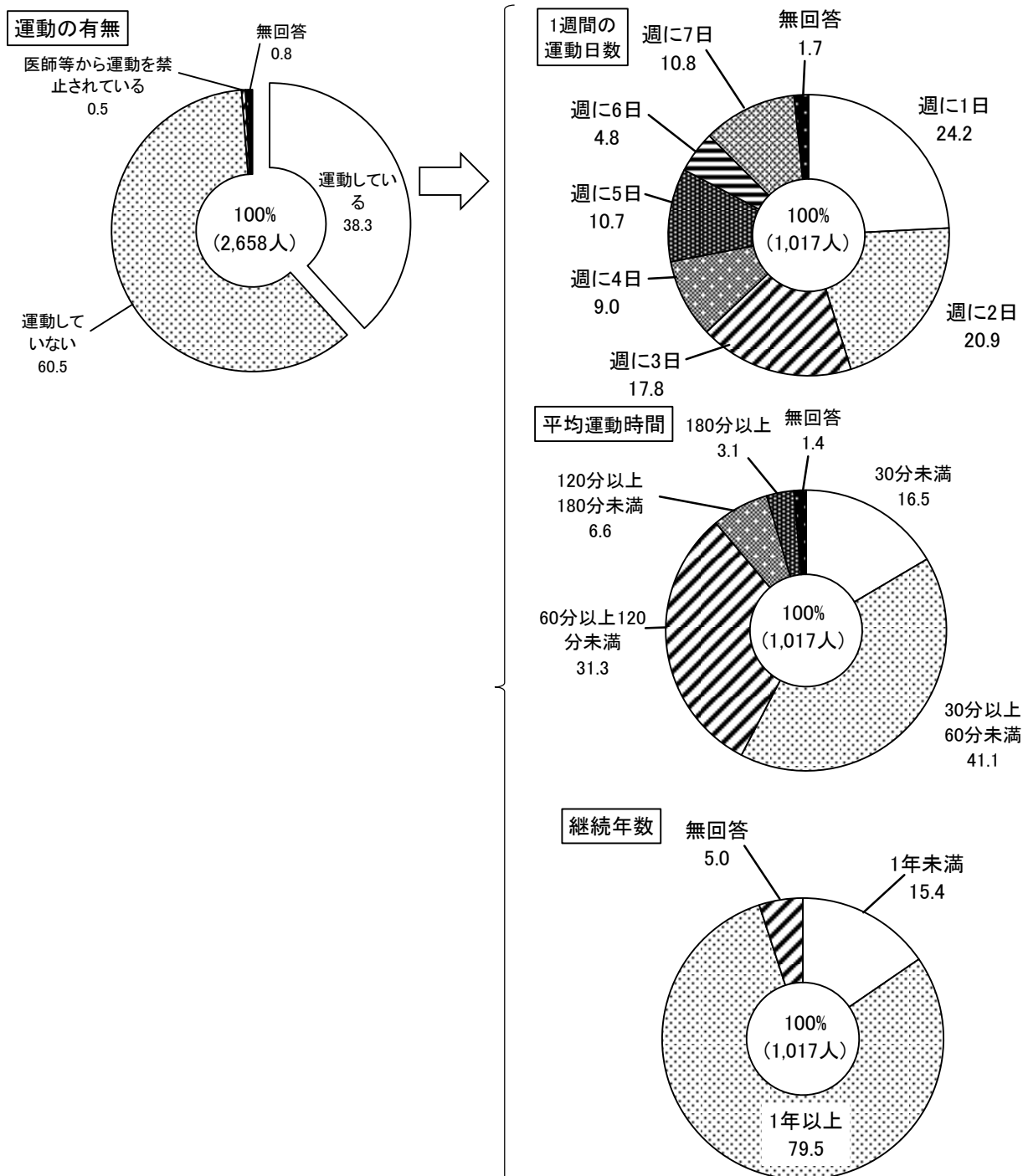
(2) 運動の有無

運動(※)をしているか聞いたところ、「運動している」の割合が 38.3%、「運動していない」が 60.5%となっている。

また、「運動している」と回答した人(1,017人)は、1週間の運動日数が「週に1日」の割合が 24.2%、平均運動時間が「30分以上60分未満」の割合が 41.1%、継続年数が「1年以上」の割合が 79.5%とそれぞれ最も高くなっている。

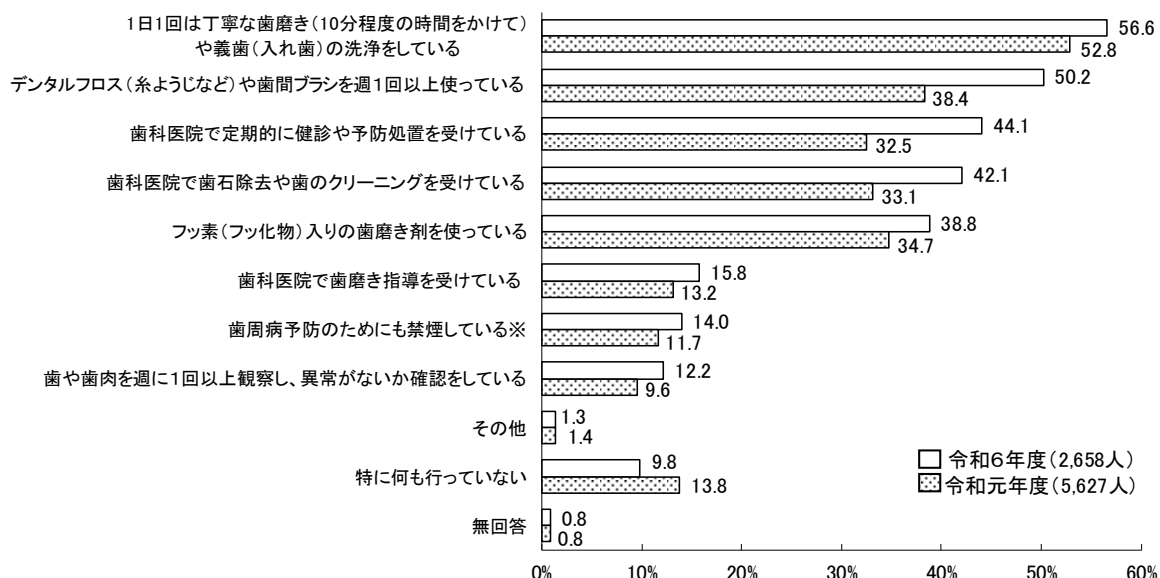
※運動

スポーツやフィットネスなどの健康・体力の維持・増進を目的として、計画的・定期的に行うもの
(出典:「健康日本21(第三次)」厚生労働省)



3 歯の健康づくりの状況〔複数回答〕

歯や歯肉の健康を保つために行っていることはあるか聞いたところ、「1日1回は丁寧な歯磨き（10分程度の時間をかけて）や義歯（入れ歯）の洗浄をしている」の割合が56.6%で最も高く、次いで「デンタルフロス（糸ようじなど）や歯間ブラシを週1回以上使っている」が50.2%となっている。



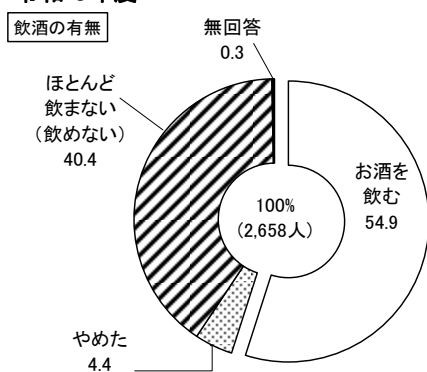
(注) ※は、令和元年度調査では「歯周病予防のためにも喫煙しないようにしている」としていた。

4 飲酒の状況

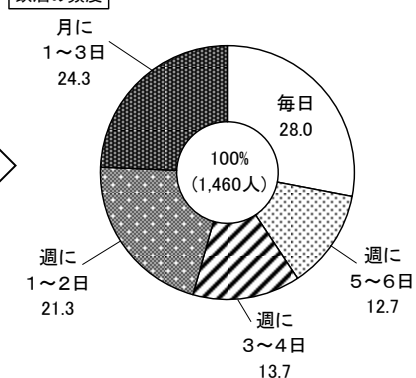
飲酒の有無は、「お酒を飲む」割合が54.9%、「ほとんど飲まない（飲めない）」が40.4%、「やめた」が4.4%となっている。

また、「お酒を飲む」人（1,460人）の飲酒の頻度は、「毎日」の割合が28.0%で最も高く、次いで「月に1～3日」が24.3%、「週に1～2日」が21.3%となっている。

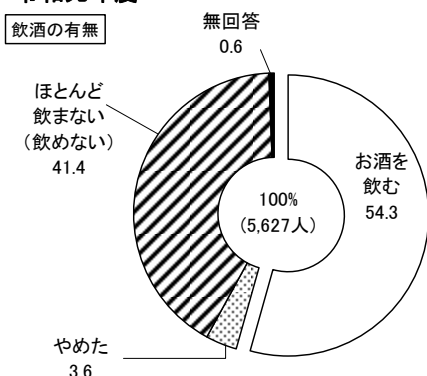
令和6年度



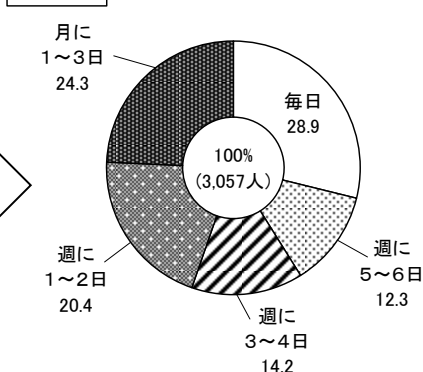
飲酒の頻度



令和元年度



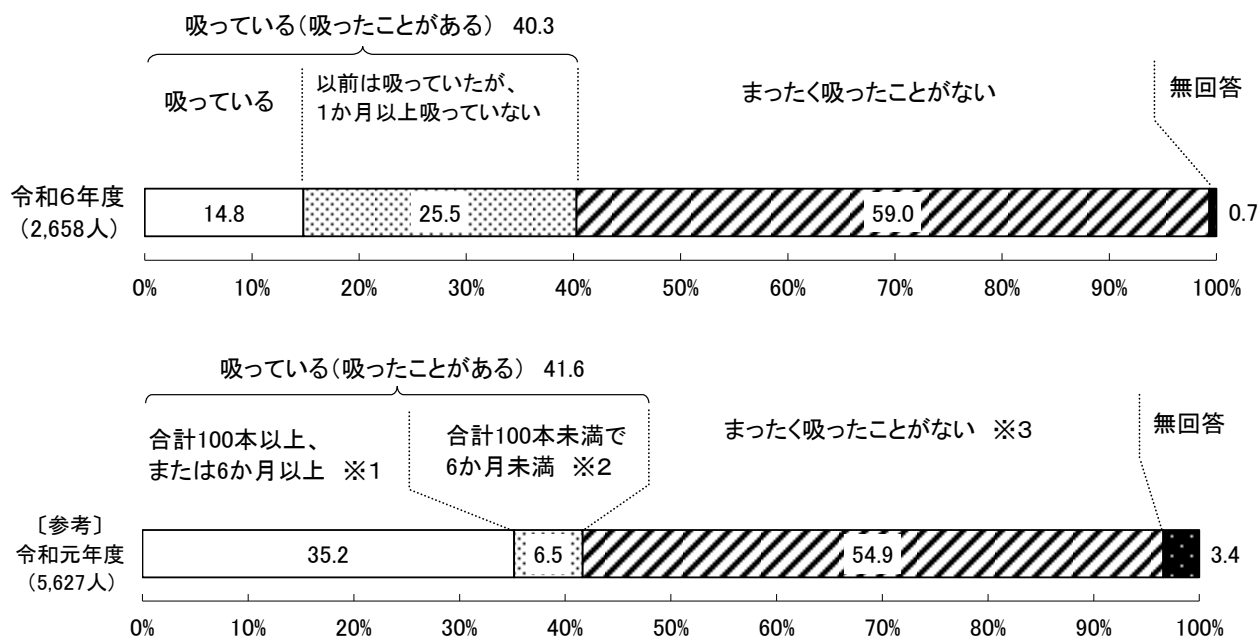
飲酒の頻度



5 喫煙の状況

(1) 喫煙経験の有無

現在、紙巻たばこまたは加熱式たばこを吸うか聞いたところ、「吸っている」の割合が 14.8%、「以前は吸っていたが 1 か月以上吸っていない」が 25.5%となっており、これらを合わせた「吸っている（吸ったことがある）」割合は 40.3%となっている。一方、「まったく吸ったことがない」は 59.0%となっている。



(注) 令和元年度調査では、紙巻たばここと加熱式たばこで設問を分けて聞いているが、喫煙経験の有無については以下のとおり集計した。

※1 は、紙巻たばこ、加熱式たばこのいずれか又は両方の喫煙経験がある人のうち、「これまでに吸った合計が 100 本以上、または 100 本未満でも 6 か月以上吸っている(吸っていた)」と回答した人の割合。

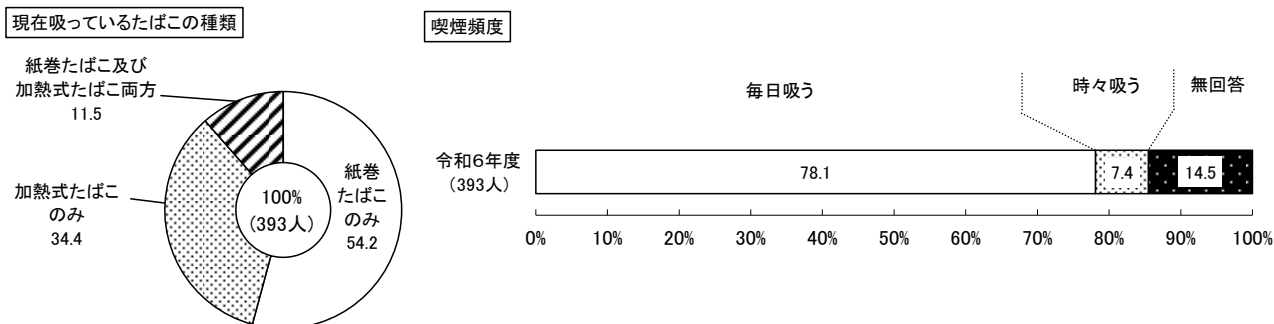
※2 は、紙巻たばこ、加熱式たばこのいずれか又は両方の喫煙経験がある人のうち、「吸ったことはあるが合計 100 本未満で 6 か月未満である」と回答した人(※1 に該当する人を除く)の割合。

※3 は、紙巻たばこ及び加熱式たばこのいずれも「まったく吸ったことがない」と回答した人の割合。

(2) 現在吸っているたばこの種類と喫煙頻度

現在、「紙巻たばこ」または「加熱式たばこ」を吸っていると回答した人(393 人)に、吸っているたばこの種類を聞いたところ、「紙巻たばこのみ」の割合が 54.2%、「加熱式たばこのみ」が 34.4%、「紙巻たばこ及び加熱式たばこ両方」が 11.5%となっている。

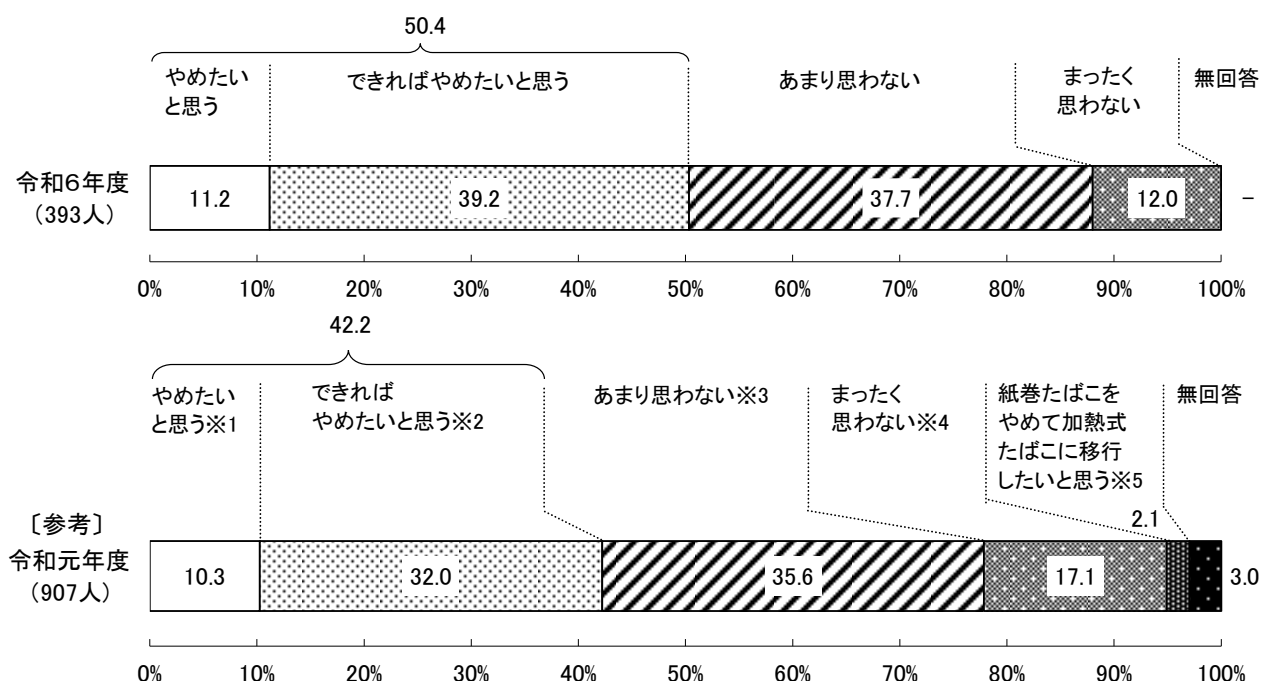
また、喫煙頻度を聞いたところ、「毎日吸う」割合が 78.1%、「時々吸う」が 7.4%となっている。



(3) 禁煙意欲

現在、「紙巻たばこ」または「加熱式たばこ」を吸っていると回答した人（393 人）に、たばこをやめたいと思うか聞いたところ、「できればやめたいと思う」の割合が 39.2%で最も高く、次いで「あまり思わない」が 37.7%、「まったく思わない」が 12.0%となっている。

「やめたいと思う」「できればやめたいと思う」を合わせた禁煙意欲のある人の割合は 50.4%となっており、令和元年度調査（42.2%）と比べて 8.2 ポイント増えている。



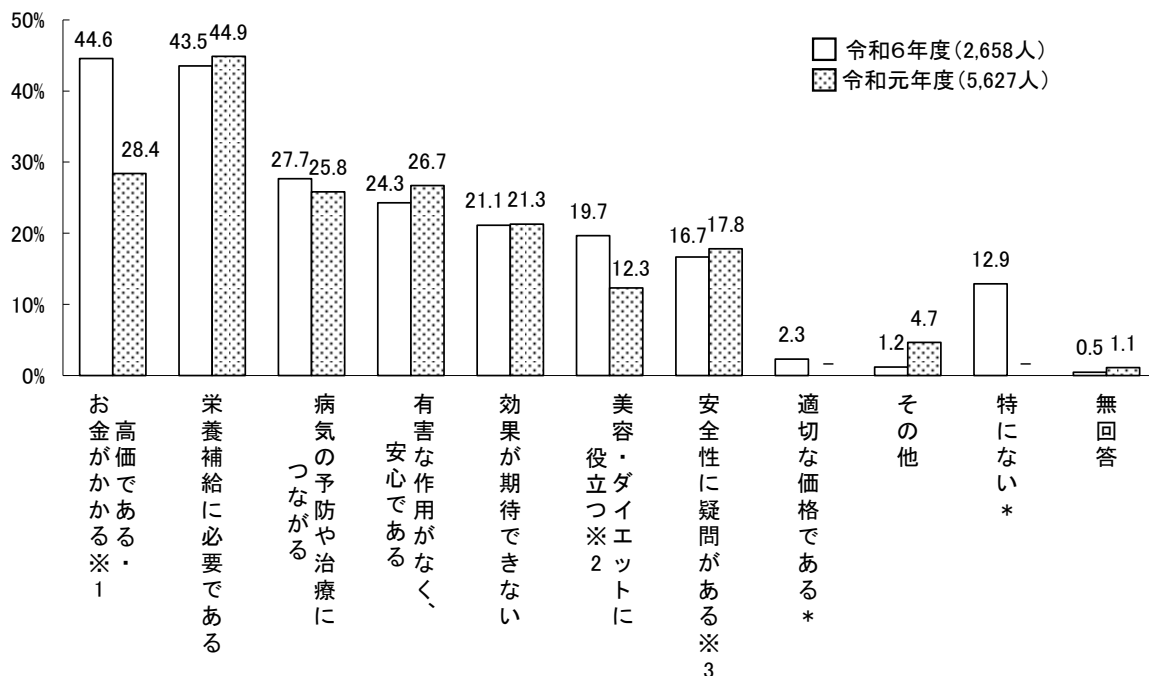
(注) 令和元年度調査では、紙巻たばこと加熱式たばこで設問を分けて聞いているが、禁煙意欲については以下のとおり集計した。

- ※1 は、紙巻たばこ、加熱式たばこのいずれか又は両方を吸う人のうち、「やめたいと思う」と回答した人（※2～5に該当する人を除く）の割合。
- ※2 は、紙巻たばこ、加熱式たばこのいずれか又は両方を吸う人のうち、「できればやめたいと思う」と回答した人（※3～5に該当する人を除く）の割合。
- ※3 は、紙巻たばこ、加熱式たばこのいずれか又は両方を吸う人のうち、「あまり思わない」と回答した人（※4、5に該当する人を除く）の割合。
- ※4 は、紙巻たばこ、加熱式たばこのいずれか又は両方を吸う人のうち、「まったく思わない」と回答した人（※5に該当する人を除く）の割合。
- ※5 は、紙巻たばこを吸う人のうち、「紙巻たばこをやめて加熱式たばこに移行したいと思う」と回答した人の割合。

6 健康食品の使用状況

(1) 健康食品のイメージ〔複数回答〕

健康食品のイメージを聞いたところ、「高価である・お金がかかる」の割合が44.6%で最も高く、次いで「栄養補給に必要である」が43.5%、「病気の予防や治療につながる」が27.7%、となっている。「高価である・お金がかかる」は令和元年度調査(28.4%)と比べて16.2ポイント増えている。

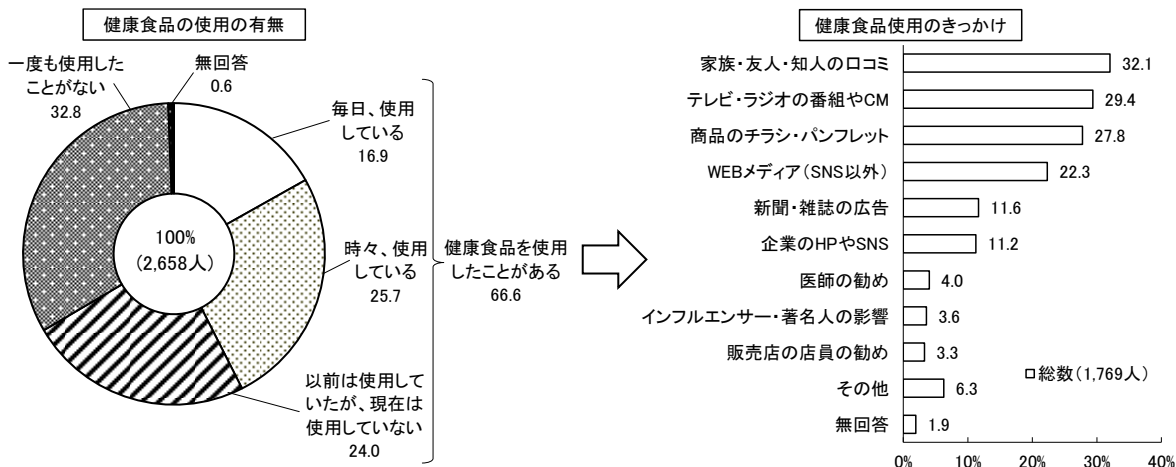


- (注1) ※1は、令和元年度調査では「高価である」としていた。
 (注2) ※2は、令和元年度調査では「美容に役立つ」としていた。
 (注3) ※3は、令和元年度調査では「信用ができない」としていた。
 (注4) *は、令和元年度調査では選択肢を設けていなかった。

(2) 健康食品の使用の有無とそのきっかけ〔複数回答〕

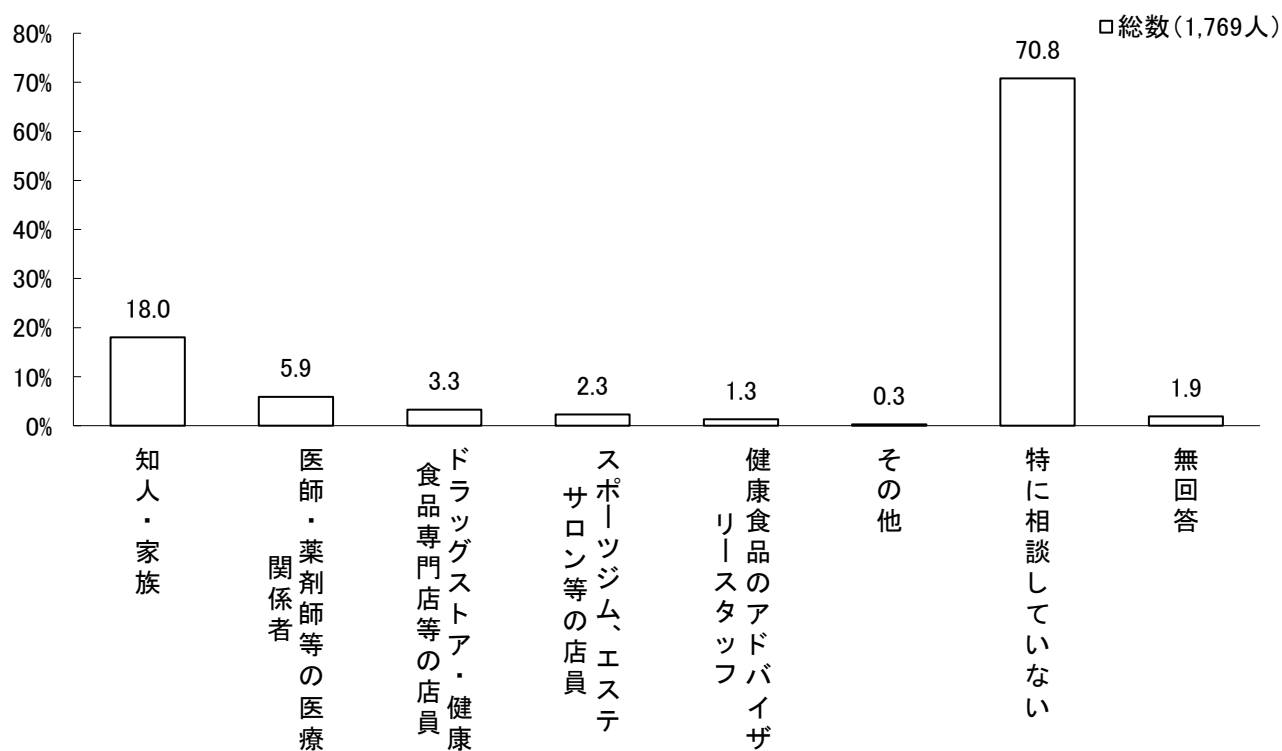
これまでに健康食品を使用したことがあるか聞いたところ、「毎日、使用している」の割合が16.9%、「時々、使用している」が25.7%、「以前は使用していたが、現在は使用していない」が24.0%となっており、これらを合わせた健康食品を使用したことがある人の割合は66.6%となっている。

また、健康食品を使用したことがある人(1,769人)に、使用するようになったきっかけは何か聞いたところ、「家族・友人・知人の口コミ」の割合が32.1%、「テレビ・ラジオの番組やCM」が29.4%となっている。



(3) 健康食品を使い始める前の相談相手〔複数回答〕

健康食品を使用したことがある人(1,769人)に、健康食品を使い始める前に相談するか聞いたところ、「特に相談していない」の割合が70.8%で最も高く、次いで「知人・家族」が18.0%、「医師・薬剤師等の医療関係者」が5.9%となっている。



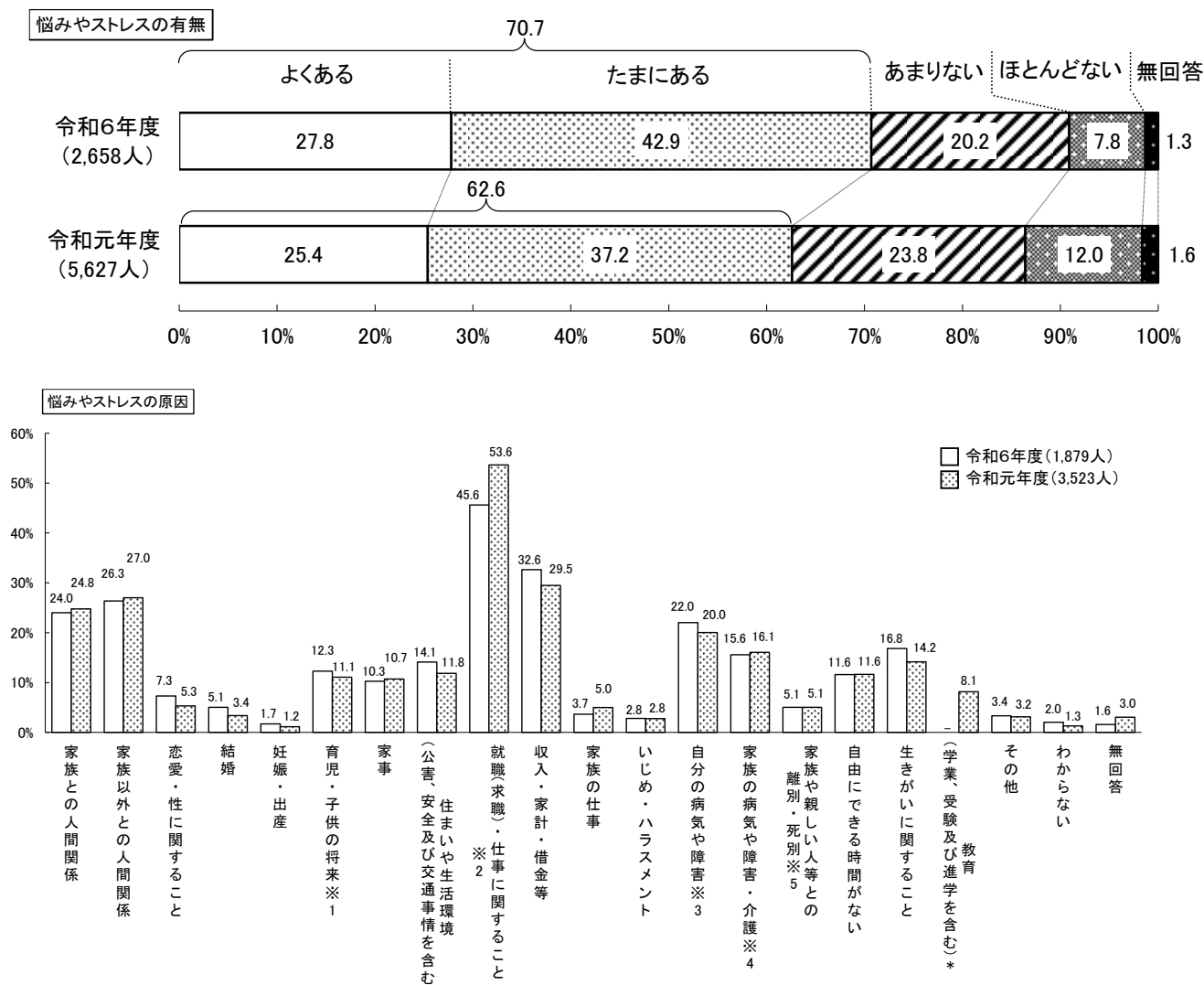
7 悩みやストレスの状況

(1) 悩みやストレスの有無と原因〔複数回答〕

毎日の生活の中での、悩みやストレスの有無を聞いたところ、「たまにある」の割合が42.9%で最も高く、次いで「よくある」が27.8%、「あまりない」が20.2%となっている。

「よくある」と「たまにある」を合わせた割合は70.7%となっており、令和元年度調査(62.6%)と比べて8.1ポイント増えている。

また、悩みやストレスが「よくある」「たまにある」と回答した人(1,879人)に、その原因を聞いたところ、「就職(求職)・仕事に関すること」の割合が45.6%で最も高く、次いで「収入・家計・借金等」が32.6%、「家族以外との人間関係」が26.3%となっている。



- (注1) ※1は、令和元年度調査では「育児」、「子供の結婚」としていた。
- (注2) ※2は、令和元年度調査では「自分の仕事」、「就職(求職)に関すること」に選択肢を分けていた。
- (注3) ※3は、令和元年度調査では「自分の病気や介護」としていた。
- (注4) ※4は、令和元年度調査では「家族の病気や介護」としていた。
- (注5) ※5は、令和元年度調査では「家族や親しい人等との死別」、「離婚」に選択肢を分けていた。
- (注6) *は、令和6年度調査では選択肢を設けていなかった。

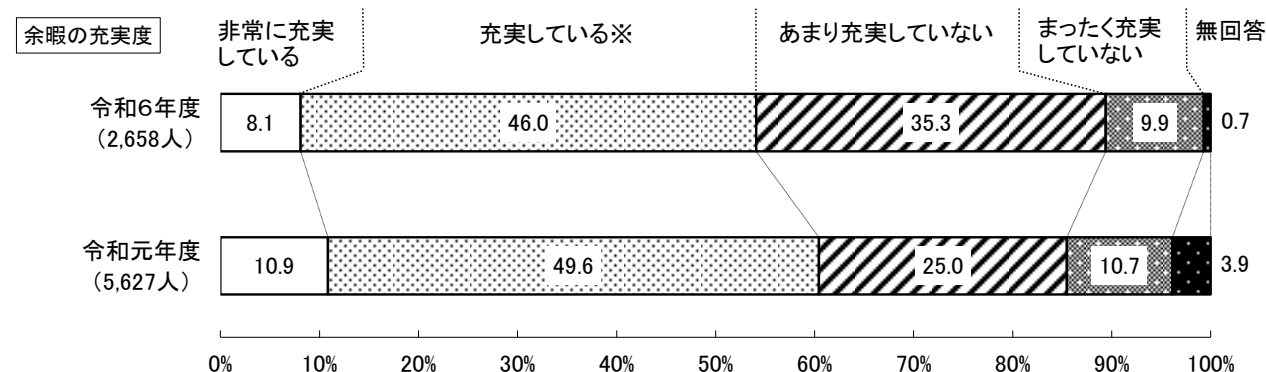
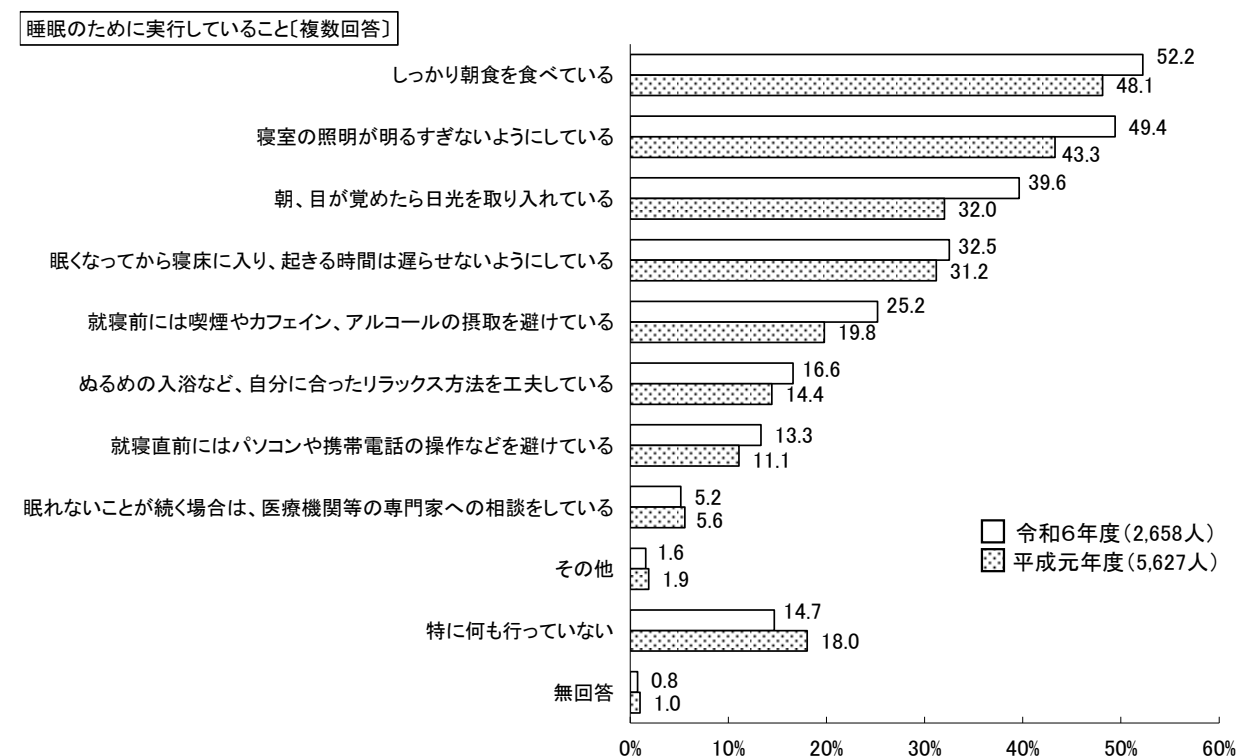
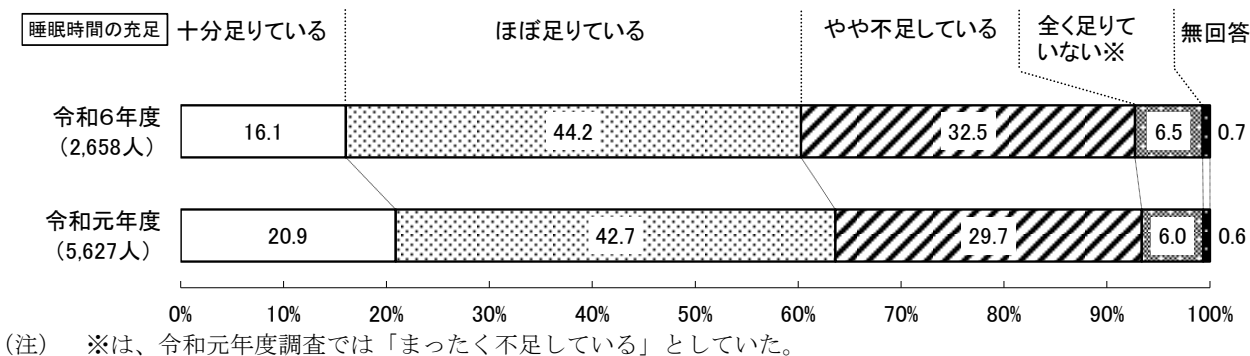
(2) 睡眠時間の充足、睡眠のために実行していること〔複数回答〕、余暇の充実度

睡眠時間の充足、睡眠のために実行していること、余暇の充実度についてそれぞれ聞いた。

睡眠時間は、「ほぼ足りている」の割合が 44.2%で最も高く、次いで「やや不足している」が 32.5%となっている。

睡眠のために実行していることは、「しっかり朝食を食べている」の割合が 52.2%で最も高くなっている。一方で、「特に何も行ってない」の割合は 14.7%となっている。

余暇は、「充実している」の割合が 46.0%で最も高く、次いで「あまり充実していない」が 35.3%となっている。



8 特定健康診査の状況（対象：40歳以上75歳未満の世帯員1,648人）

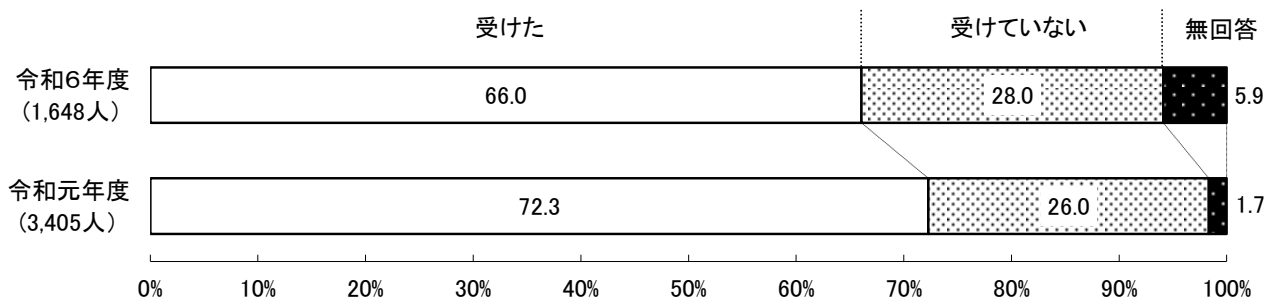
（1）過去1年間の特定健康診査の受診の有無

過去1年間に、特定健康診査（※）を受診したか聞いたところ、「受けた」割合が66.0%、「受けていない」が28.0%となっている。

※ 特定健康診査

40歳から74歳の方を対象に、メタボリックシンドロームに着目して糖尿病や高血圧、脂質異常症のリスクを早期に発見するための検査です。

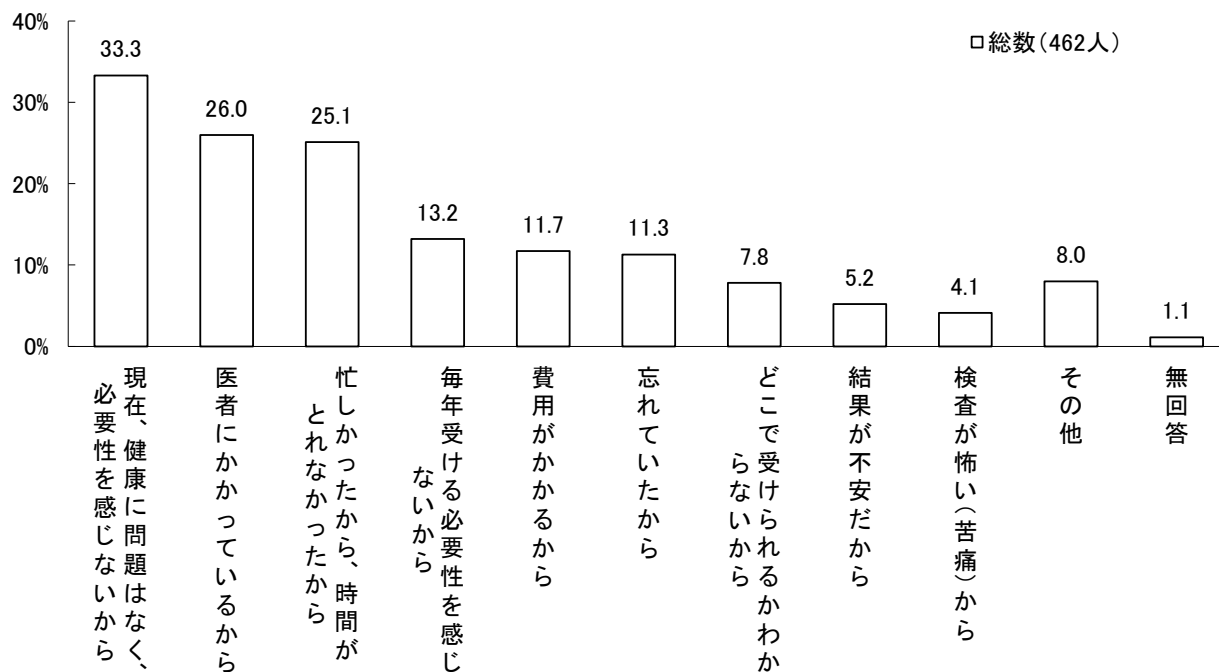
検査は問診、計測（身長・体重・腹囲）、血液・血圧検査、尿検査などを行います。



（注）がん検診のみの受診、妊産婦健診、歯の健康診査、病院や診療所で行う診療としての検査は含まない。

（2）特定健康診査を受けなかった理由〔複数回答〕

過去1年間に、特定健康診査を「受けていない」人（462人）に、受けなかった理由を聞いたところ、「現在、健康に問題はなく、必要性を感じないから」の割合が33.3%で最も高く、次いで「医者にかかっているから」が26.0%、「忙しかったから、時間がとれなかったから」が25.1%となっている。



(3) 特定健康診査結果の指摘の有無と指摘の内容〔複数回答〕

過去 1 年間に、特定健康診査を「受けた」人(1,088 人)に、指摘を受けたか聞いたところ、「指摘あり」の割合が 57.8%、「指摘なし」は 40.8%となっている。指摘の内容は「脂質異常」の割合が 36.6%で最も高くなっている。

	総 数	指 摘 あ り	肥 満	高 血 圧	糖 尿 病 (血 糖 値 が 高 い)	脂 質 異 常	指 摘 な し	無 回 答
令和6年度	100.0 (1,088)	57.8	18.2	24.3	9.7	36.6	40.8	1.4
令和元年度	100.0 (2,461)	51.8	16.3	20.7	9.2	30.0	44.9	3.3

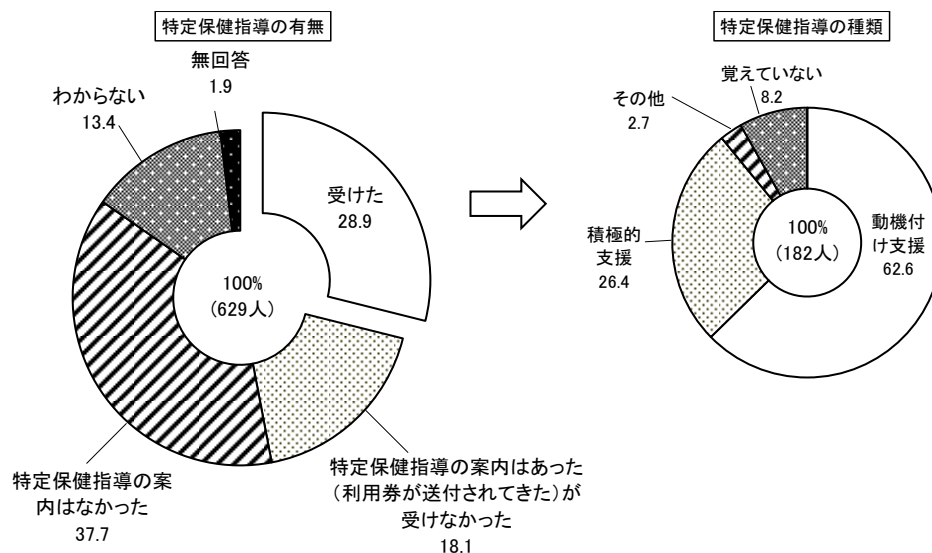
(注) 脂質異常とは次のいずれかを指す。

- ・ 中性脂肪が高い、HDL コレステロールが低い、LDL コレステロールが高い。

(4) 特定保健指導の有無と指導の種類

特定健康診査の結果、指摘(肥満、高血圧、糖尿病、脂質異常)を受けた人(629 人)に特定保健指導(※)を受けたか聞いたところ、「受けた」の割合が 28.9%となっている。一方で、「特定保健指導の案内はなかった」の割合は 37.7%、「特定保健指導の案内はあった(利用券が送付されてきた)が受けなかった」は 18.1%となっている。

また、特定保健指導を「受けた」人(182 人)に、指導の種類を聞いたところ、「動機付け支援」の割合が 62.6%、「積極的支援」が 26.4%となっている。



※ 特定保健指導

<対象者>

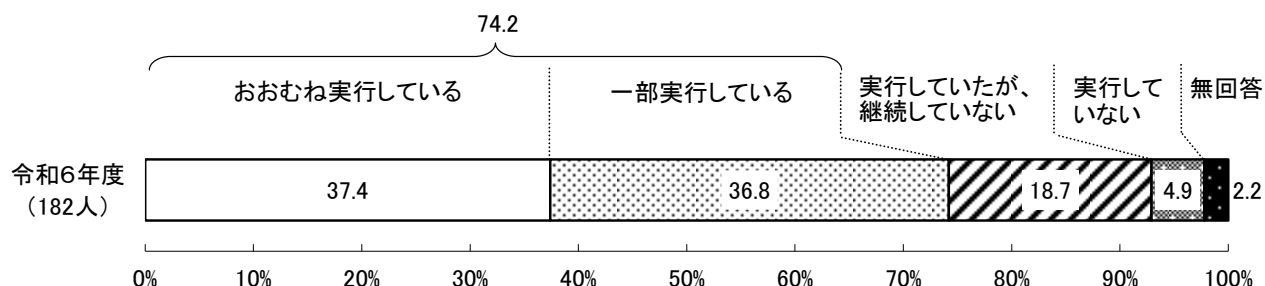
腹囲	血糖、脂質、 血圧	喫煙歴	対象	
			40-64歳	65-74歳
男性85cm以上・ 女性90cm以上の方	2つ以上該当	あり	積極的 支援	動機付け 支援
	1つ該当	なし		
男性85cm未満・ 女性90cm未満の方で、 BMI(体重(kg)/身長(m) ²) が25以上の方	3つ該当	あり	積極的 支援	動機付け 支援
	2つ該当	あり		
	1つ該当	なし		

<指導の種類>

- ・ 動機付け支援：原則 1 回の保健指導を受ける
- ・ 積極的支援：3～6 か月の間、複数回、継続的に保健指導(面接・電話・メールなど)を受ける

(5) 特定保健指導で計画した内容の実行の程度

特定保健指導を「受けた」人（182人）に、特定保健指導で計画した内容をどの程度実行しているか聞いたところ、「おおむね実行している」の割合が37.4%、「一部実行している」が36.8%で、これらを合わせた割合は74.2%となっている。



9 がん検診の受診状況

20歳以上の世帯員に、がん検診の受診状況を聞いたところ、胃がん検診、大腸がん検診及び肺がん検診については「1年に1回程度」の割合が最も高くそれぞれ32.1%、38.3%、46.0%となっている。乳がん検診及び子宮頸がん検診（いずれも女性のみ）については、「1年に1回程度」と「2年に1回程度」を合わせた割合が、それぞれ34.2%、31.8%となっている。

また、「受診したことがない」の割合は、胃がん検診が28.3%、大腸がん検診が30.9%、肺がん検診が28.6%、乳がん検診が24.2%、子宮頸がん検診が24.4%となっている。

＜参考＞がん検診に関する国指針（「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」）

○胃がん検診（※1）…【対象者】50歳以上、【受診間隔】2年に1回

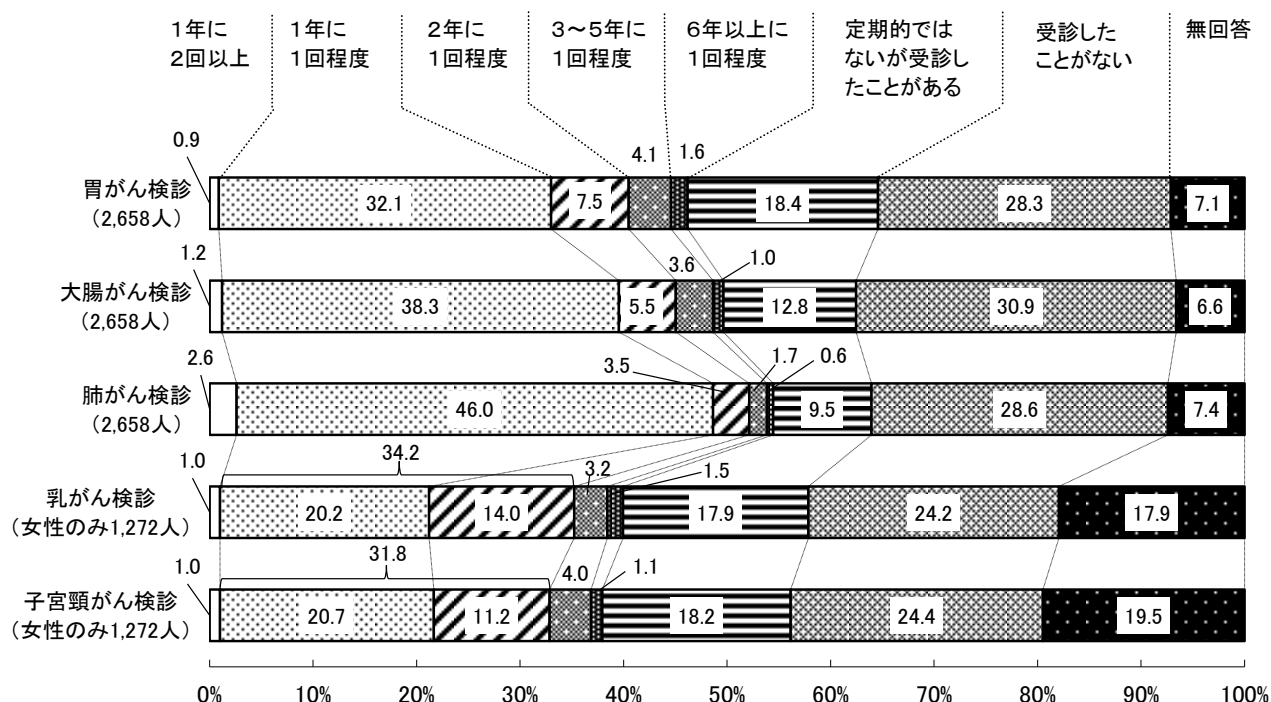
○大腸がん検診、肺がん検診…【対象者】40歳以上、【受診間隔】年1回

○乳がん検診…【対象者】40歳以上の女性、【受診間隔】2年に1回

○子宮頸がん検診（※2）…【対象者】20歳以上の女性、【受診間隔】2年に1回

※1 胃がん検診は、当分の間、胃部エックス線検査を40歳以上の者に年1回実施しても差支えない。

※2 子宮頸がん検診については、令和6年2月よりHPV検査単独法が追加されている。

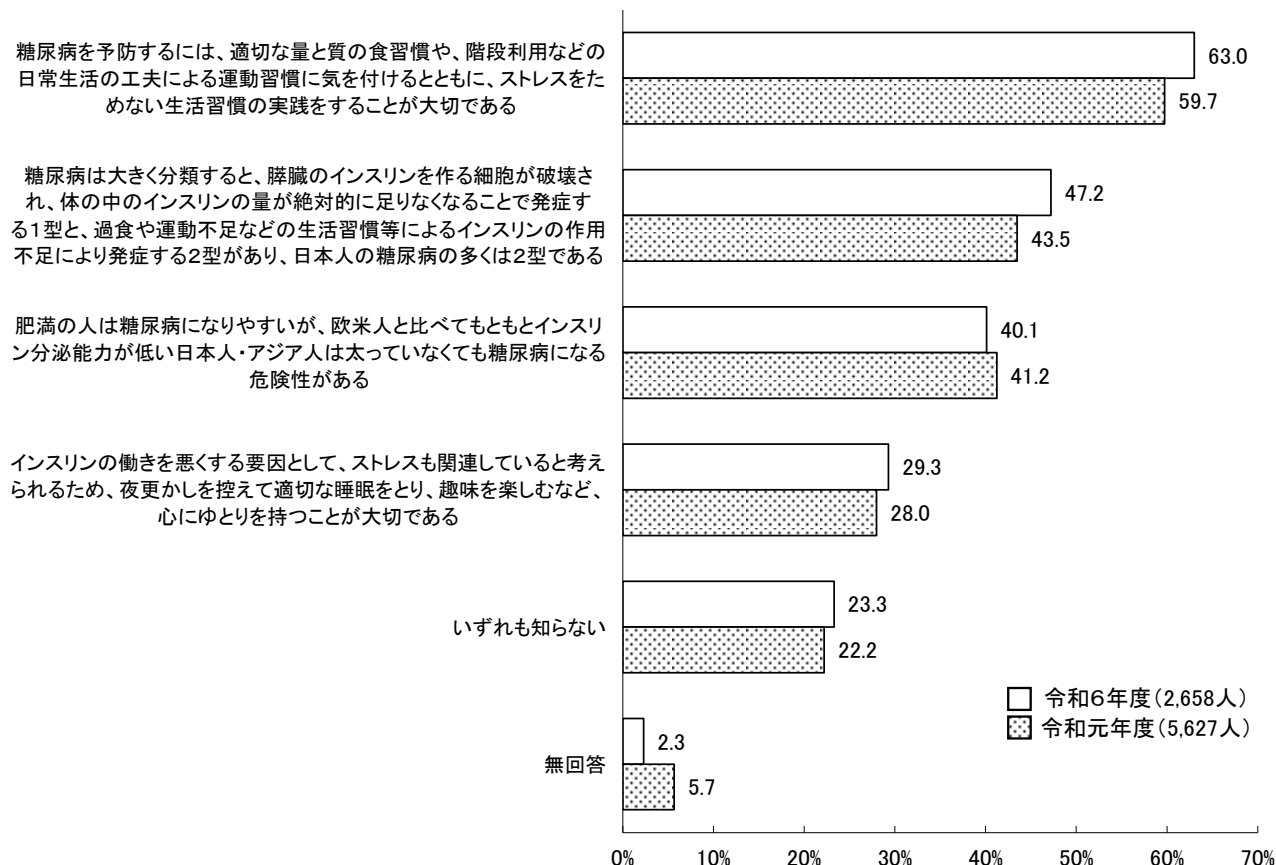


（注）がん検診については、健診等（健康診断、健康診査及び人間ドック）の中で受診したものも含む。

10 糖尿病

(1) 生活習慣改善による発症予防について知っていること〔複数回答〕

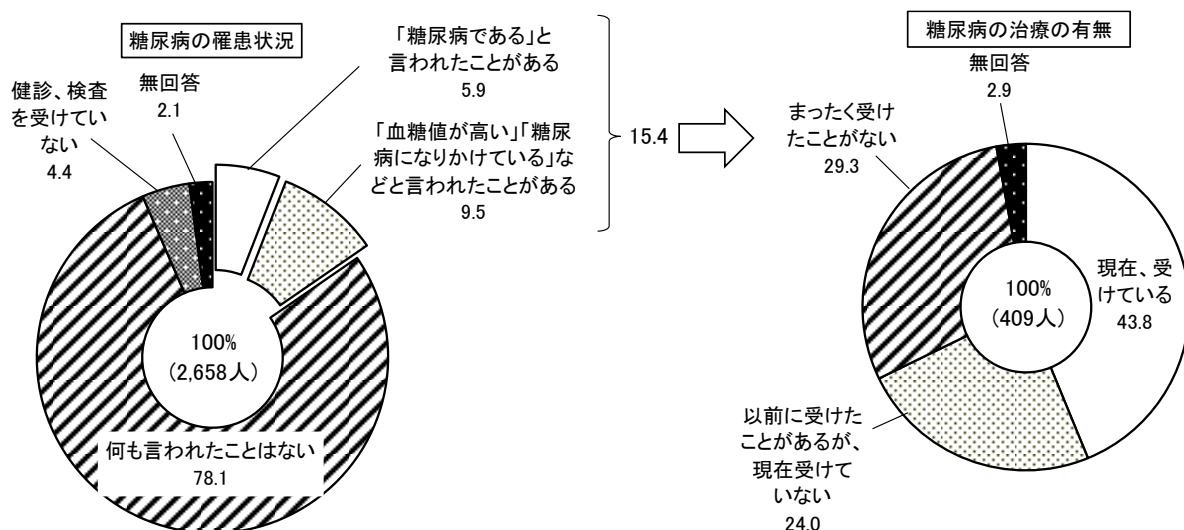
生活習慣の改善による発症予防について、以下のようなことを知っているか聞いたところ、「糖尿病を予防するには、適切な量と質の食習慣や、階段利用などの日常生活の工夫による運動習慣に気を付けるとともに、ストレスをためない生活習慣の実践をすることが大切である」について知っているという回答した割合が 63.0%で最も高くなっている。



(2) 糖尿病の罹患状況と治療の有無

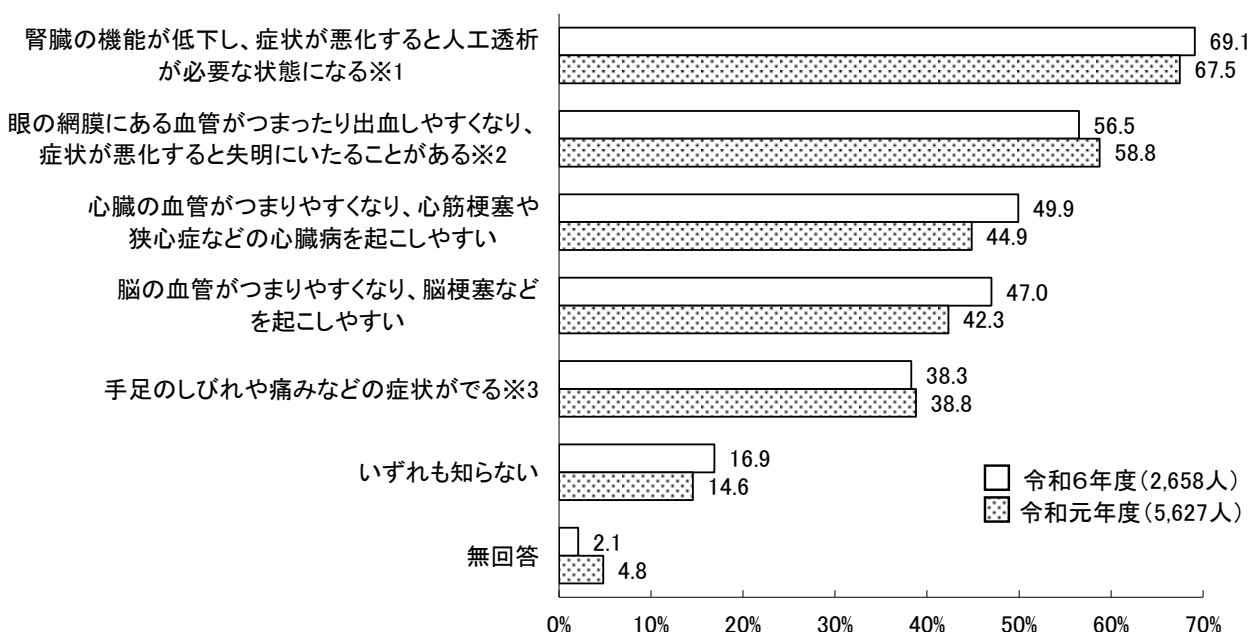
健診等の結果、糖尿病と言われたことがあるか聞いたところ、『『血糖値が高い』『糖尿病になりかけている』などと言われたことがある』割合が9.5%、『『糖尿病である』と言われたことがある』が5.9%となっている。一方で、『何も言われたことはない』割合は78.1%となっている。

また、『『血糖値が高い』『糖尿病になりかけている』などと言われたことがある』と『『糖尿病である』と言われたことがある』と回答した人(409人)に治療の有無を聞いたところ、『現在、受けている』割合が43.8%、『以前に受けたことがあるが、現在受けていない』が24.0%となっている。一方で、『まったく受けたことがない』は29.3%となっている。



(3) 糖尿病について知っていること〔複数回答〕

糖尿病が悪化することで、以下のような状態になることを知っているか聞いたところ、『腎臓の機能が低下し、症状が悪化すると人工透析が必要な状態になる』について知っている割合が69.1%で最も高く、次いで『眼の網膜にある血管がつまったり出血しやすくなり、症状が悪化すると失明にいたることがある』が56.5%となっている。



(注1) ※1 は、令和元年度調査では「腎臓の機能が低下し、放置し症状が進むと人工透析が必要な状態になる」としていた。

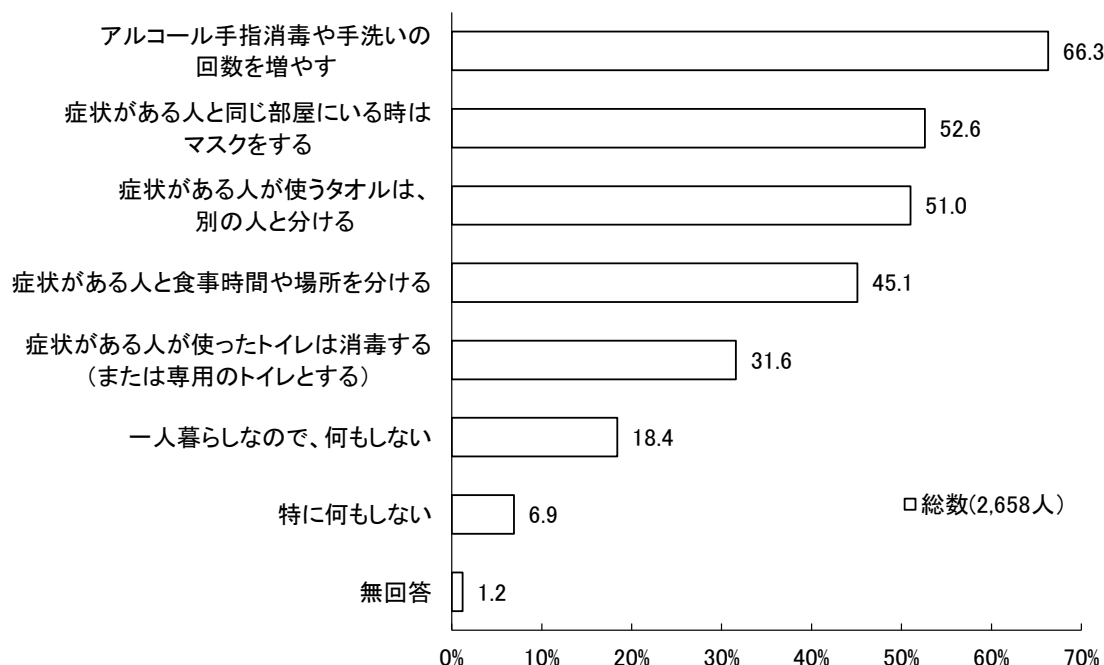
(注2) ※2 は、令和元年度調査では「眼の網膜にある血管がつまったり出血しやすくなり、放置し症状が進むと失明にいたることがある」としていた。

(注3) ※3 は、令和元年度調査では「手足のしびれや痛み、感覚が鈍くなるなどの症状がでる」としていた。

11 感染症について

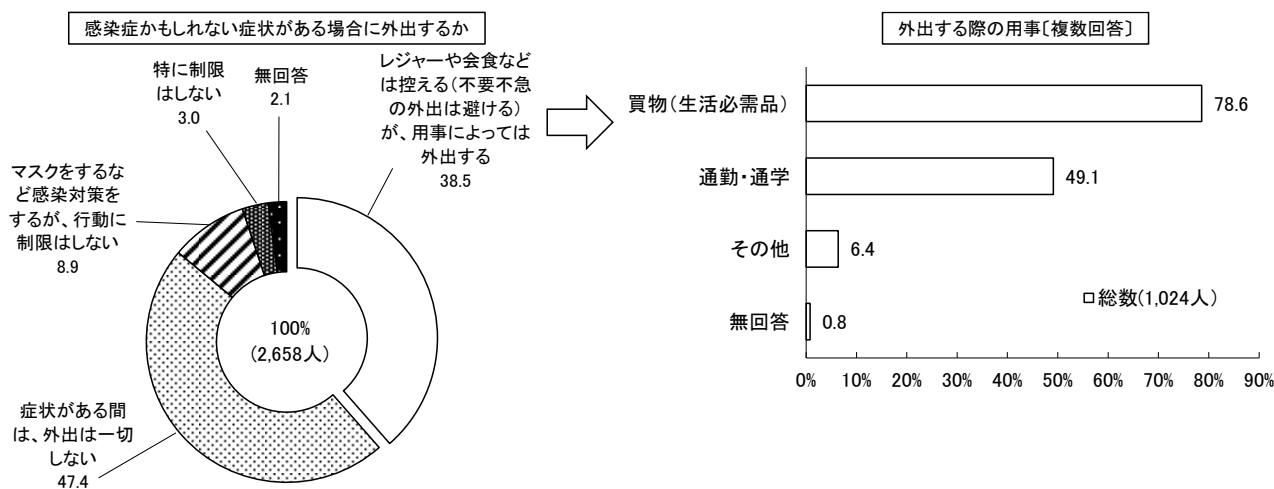
(1) 家庭内の感染対策〔複数回答〕

家庭内に発熱や咳、下痢など感染症かもしれない症状がある方がいる場合の感染症対策を聞いたところ、「アルコール手指消毒や手洗いの回数を増やす」の割合が66.3%で最も高く、次いで「症状がある人と同じ部屋にいる時はマスクをする」が52.6%となっている。



(2) 感染症の疑いがある場合に外出する用事〔複数回答〕

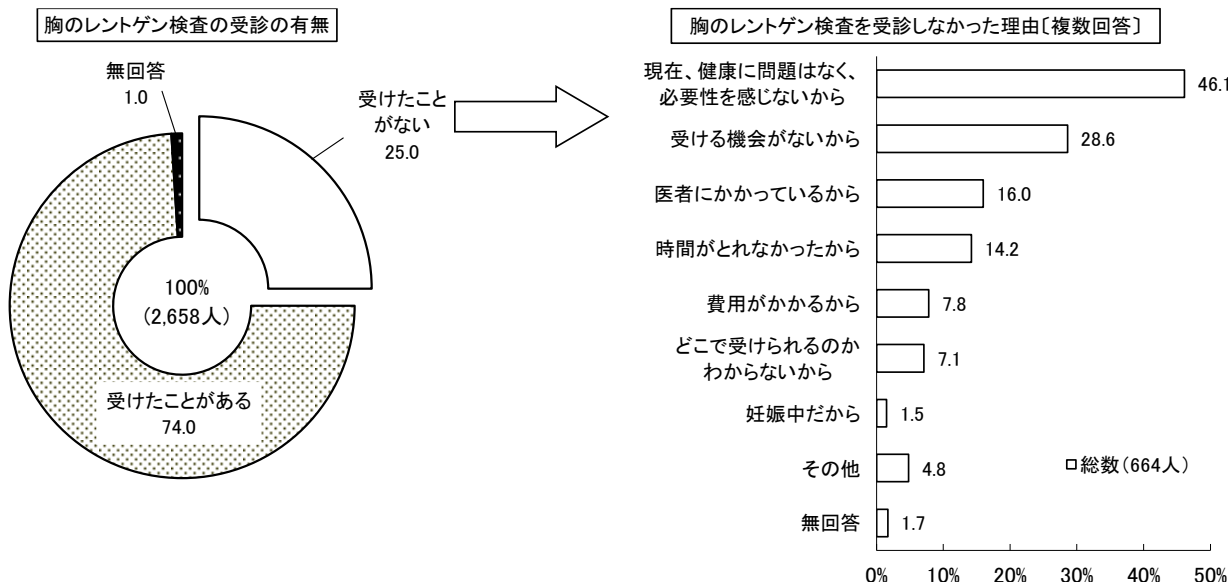
感染症かもしれない症状がある場合、通勤や通学、買物、レジャーなどのために外出するか聞いたところ、「症状がある間は、外出は一切しない」の割合が47.4%で最も高く、次いで「レジャーや会食などは控える（不要不急の外出は避ける）が、用事によっては外出する」が38.5%となっている。「レジャーや会食などは控える（不要不急の外出は避ける）が、用事によっては外出する」人(1,024人)に外出する用事を聞いたところ、「買物(生活必需品)」の割合が78.6%、「通勤・通学」が49.1%となっている。



12 結核

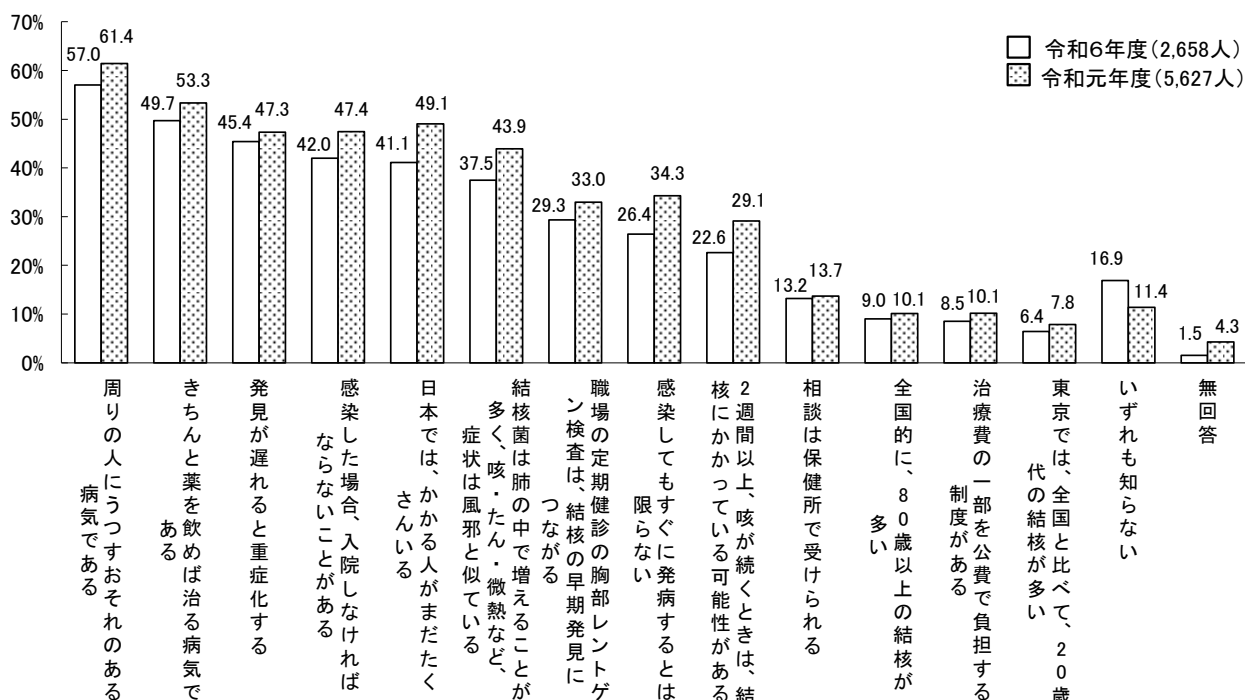
(1) 胸のレントゲン検査の受診状況と受診しなかった理由〔複数回答〕

この1年以内に胸のレントゲン検査を受けたことがあるか聞いたところ、「受けたことがある」の割合が74.0%、「受けたことがない」が25.0%となっている。「受けたことがない」人(664人)に受診しなかった理由を聞いたところ、「現在、健康に問題はなく、必要性を感じないから」の割合が46.1%で最も高く、次いで「受ける機会がないから」が28.6%となっている。



(2) 結核について知っていること〔複数回答〕

結核について、以下のようなことを知っているか聞いたところ、「周りの人にうつすおそれのある病気である」について知っている割合が57.0%で最も高く、次いで「きちんと薬を飲めば治る病気である」が49.7%、「発見が遅れると重症化する」が45.4%となっている。

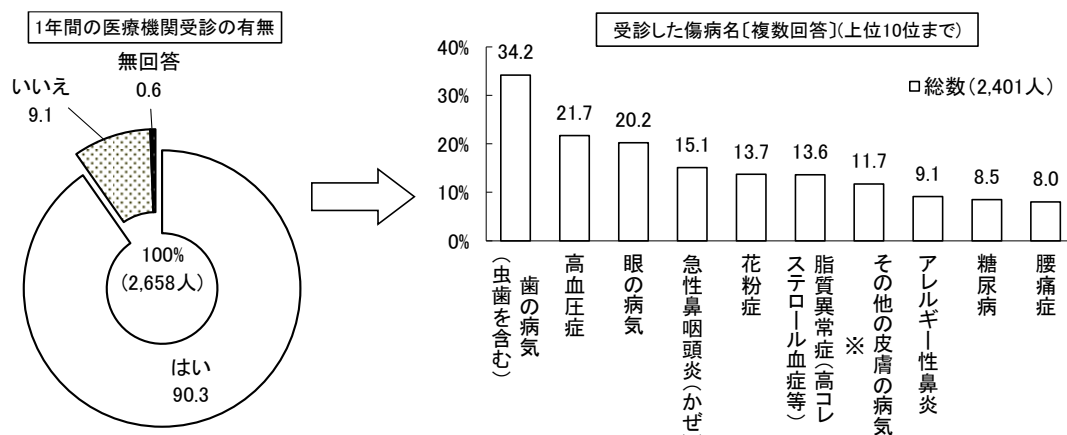


(注) ※は、令和元年度調査では「結核菌は主に肺の内部で増えるため、咳・たん・微熱など、風邪の症状と似ている」としていた。

13 医療機関の受診状況と傷病名〔複数回答〕

この1年間に病院や診療所を受診したか聞いたところ、「はい」(受診した)の割合が90.3%、「いいえ」(受診していない)が9.1%となっている。

また、「はい」(受診した)と回答した人(2,401人)にどのような傷病で受診したかを聞いたところ、「歯の病気(虫歯を含む)」が34.2%で最も高く、次いで「高血圧症」が21.7%、「眼の病気」が20.2%、「急性鼻咽頭炎(かぜ)」が15.1%、「花粉症」が13.7%となっている。

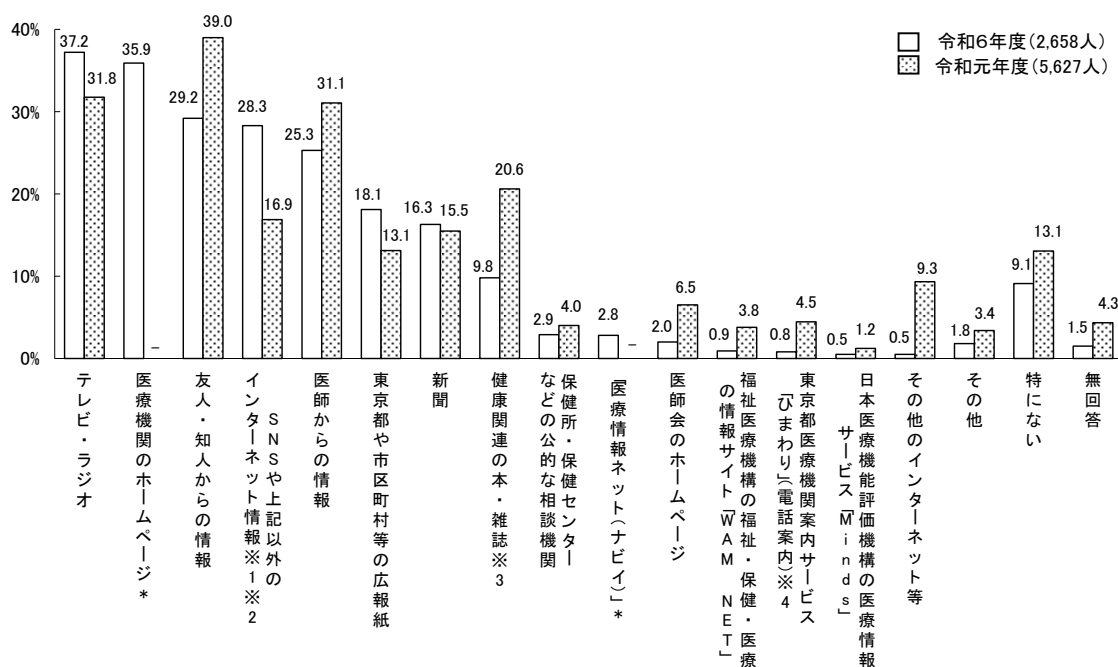


(注) ※は、「アトピー性皮膚炎」以外の皮膚の病気を示している。

14 医療情報の提供

(1) 医療情報の入手方法〔複数回答〕

医療情報をどのように入手しているか聞いたところ、「テレビ・ラジオ」の割合が37.2%で最も高く、次いで「医療機関のホームページ」が35.9%、「友人・知人からの情報」が29.2%となっている。「友人・知人からの情報」は令和元年度調査(39.0%)と比べて、9.8ポイント減少している。



(注1) ※は、令和元年度調査では選択肢を設けていなかった。

(注2) ※1の「上記以外」とは「医療機関のホームページ」、「医療情報ネット(ナビイ)」、「医師会のホームページ」、「福祉医療機構の福祉・保健・医療の情報サイト「WAM NET」」、「日本医療機能評価機構の医療情報サービス「Minds」」を示している。

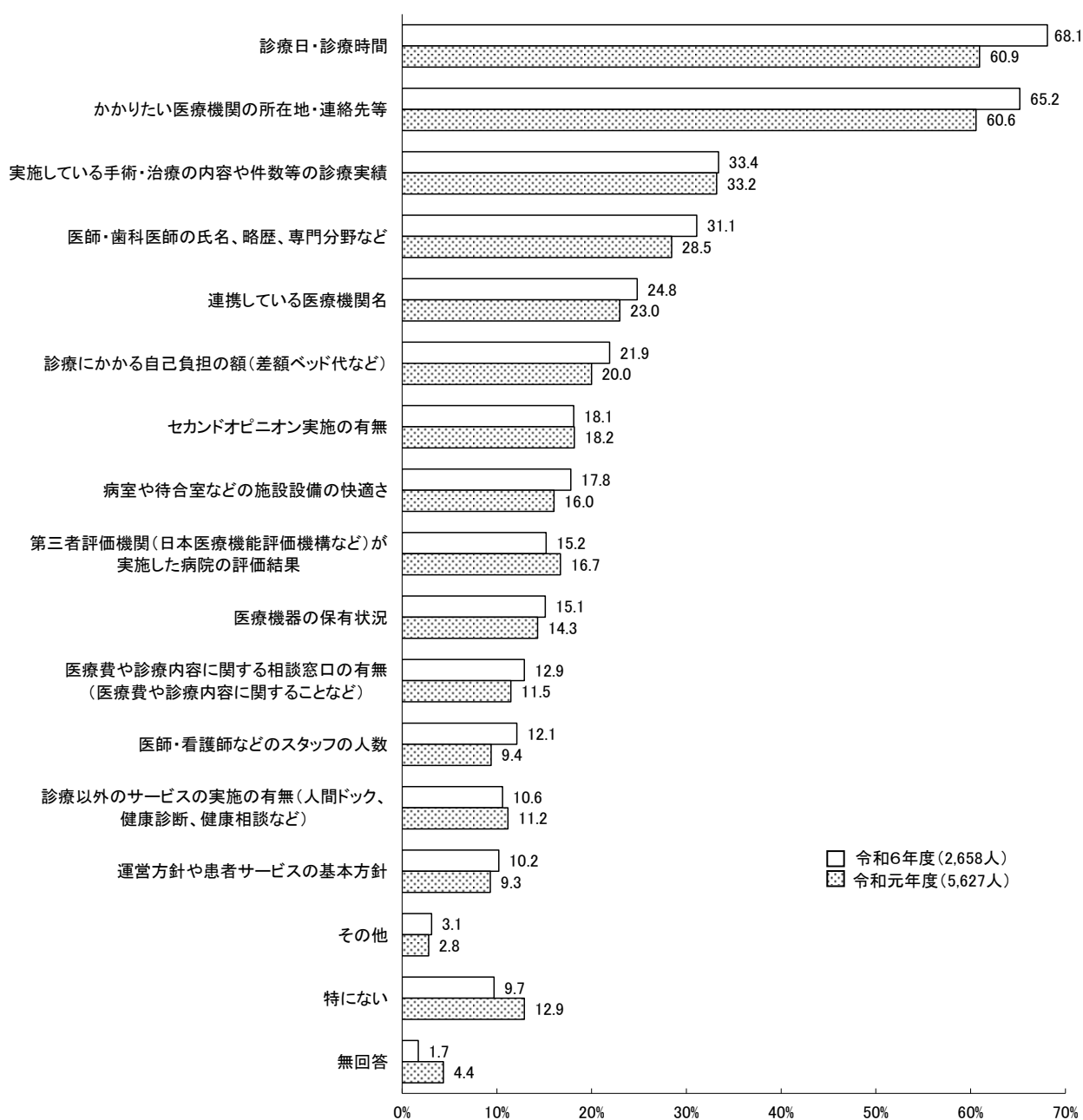
(注3) ※2は、令和元年度調査では「SNS(ツイッター、フェイスブック等)・ブログ・掲示板」としていた。

(注4) ※3は、令和元年度調査では「健康関連の本」と「雑誌の特集記事」に選択肢を分けていた。

(注5) ※4は、令和元年度調査では「東京都医療機関案内サービス「ひまわり」」としていた。

(2) 医療機関を選ぶために欲しい情報〔複数回答〕

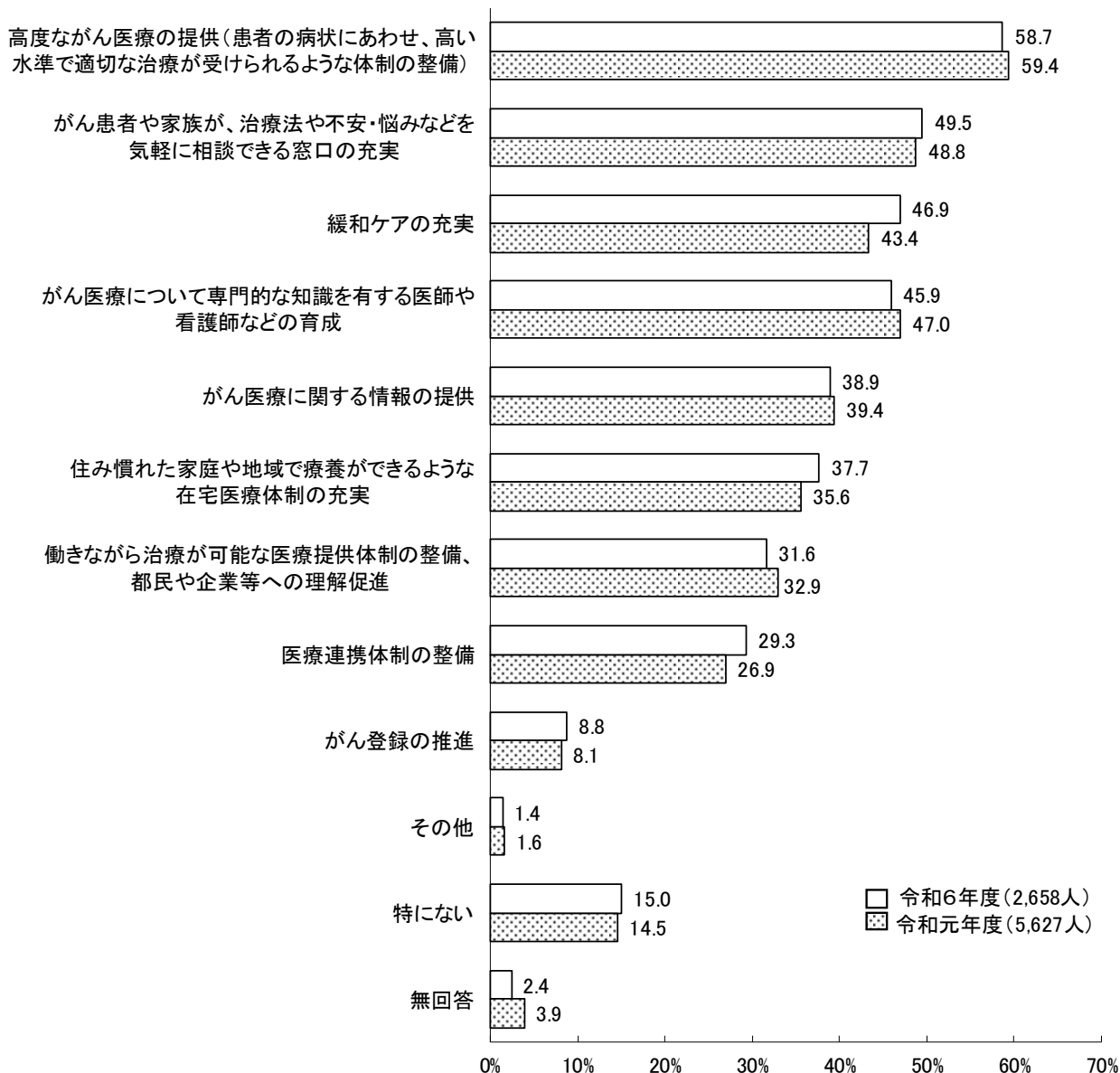
病院や診療所などの医療機関を選ぶために欲しい情報はどのような情報か聞いたところ、「診療日・診療時間」の割合が68.1%で最も高く、次いで「かかりたい医療機関の所在地・連絡先等」が65.2%、「実施している手術・治療の内容や件数等の診療実績」が33.4%となっている。



15 がん医療・在宅医療・リハビリテーション医療

(1) がん医療対策に望むこと〔複数回答〕

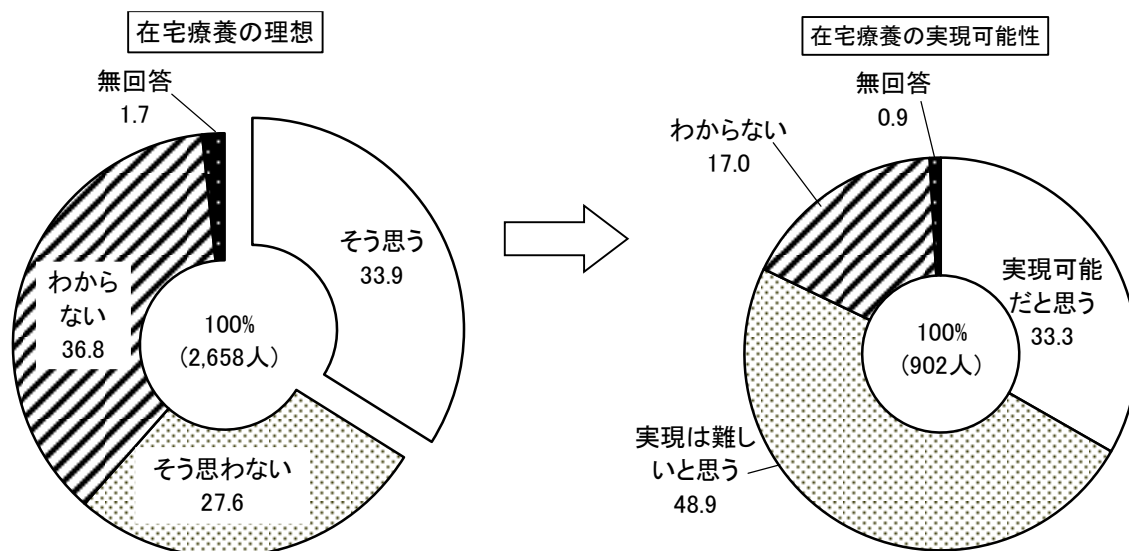
がん医療対策について、どのようなことに力を入れてほしいと思うか聞いたところ、「高度ながん医療の提供（患者の病状にあわせ、高い水準で適切な治療が受けられるような体制の整備）」の割合が58.7%で最も高く、次いで「がん患者や家族が、治療法や不安・悩みなどを気軽に相談できる窓口の充実」が49.5%、「緩和ケアの充実」が46.9%となっている。



(2) 在宅療養の理想とその実現可能性

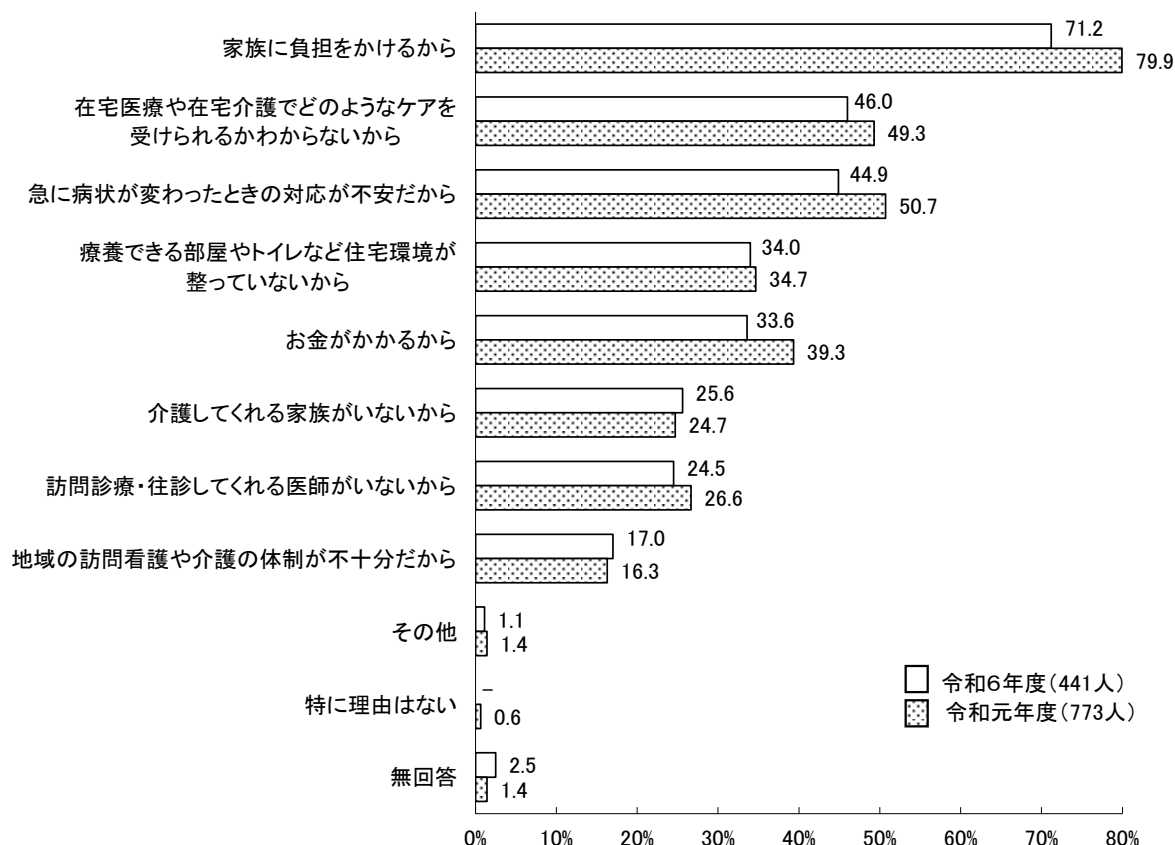
脳卒中の後遺症や末期がんなどで長期の療養が必要になった場合、理想として自宅で療養を続けたいと思うか聞いたところ、「そう思う」の割合が33.9%、「そう思わない」が27.6%、「わからない」が36.8%となっている。

また、「そう思う」と回答した人（902人）に、実現可能だと思うか聞いたところ、「実現可能だと思う」の割合が33.3%、「実現は難しいと思う」が48.9%、「わからない」が17.0%となっている。



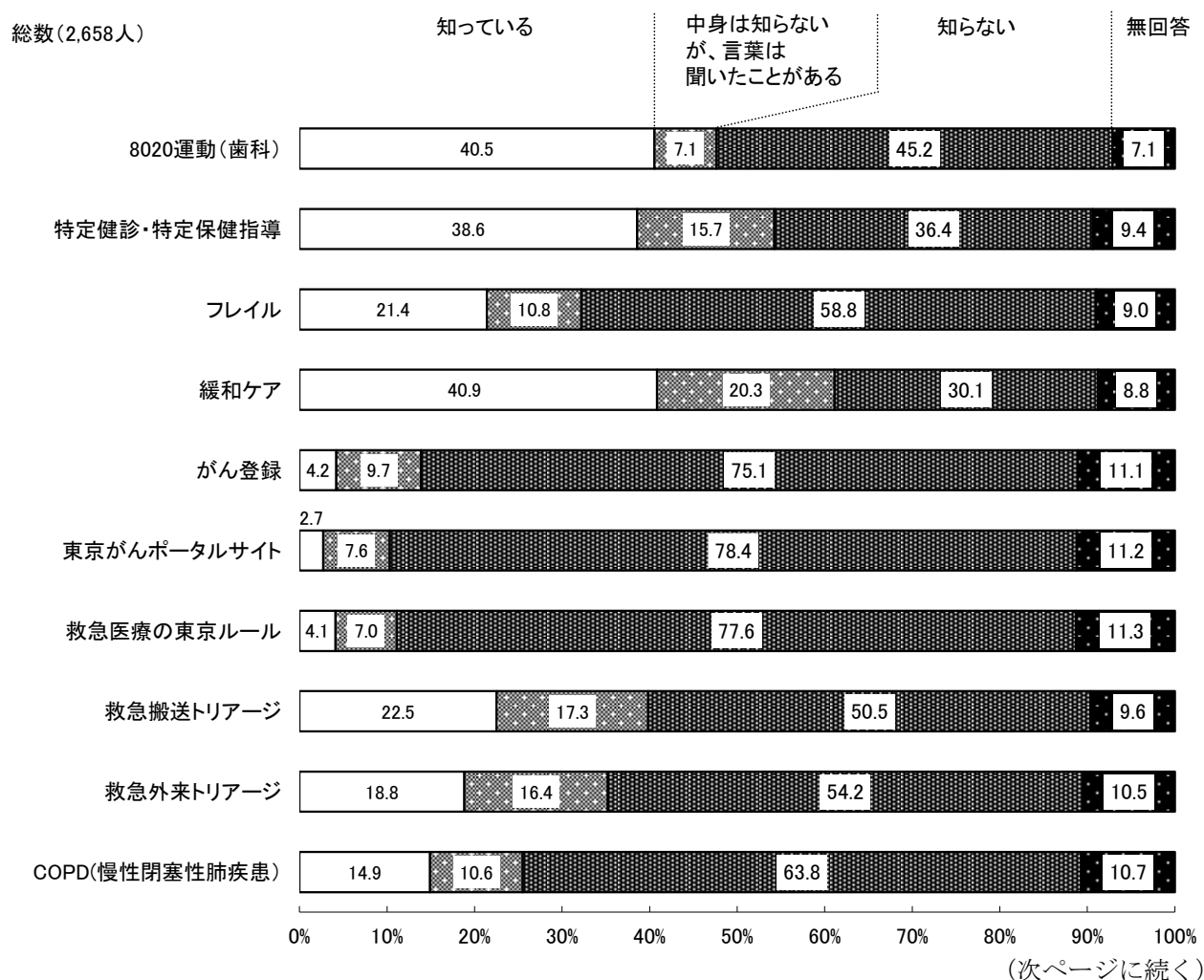
(3) 在宅療養の実現が難しいと思う理由〔複数回答〕

在宅療養の実現は難しいと思う人（441人）にその理由を聞いたところ、「家族に負担をかけるから」の割合が71.2%で最も高く、次いで「在宅医療や在宅介護でどのようなケアを受けられるかわからないから」が46.0%、「急に病状が変わったときの対応が不安だから」が44.9%となっている。



16 保健医療関連施策の認知度

この調査に回答する以前に、以下の項目を知っていたかどうか聞いたところ、「知っている」割合は、「緩和ケア」が40.9%で最も高く、次いで「8020運動（歯科）」が40.5%、「特定健診・特定保健指導」が38.6%、「救急相談センター（＃7119）」が38.4%、「保険適用による禁煙治療」が25.7%となっている。



また、「利用経験あり」の割合は、「救急相談センター（＃7119）」が13.6%で最も高く、次いで「東京都医療機関案内サービス『ひまわり』（電話案内）」が3.2%、「子供の健康相談室（小児救急相談）（＃8000）」が3.0%となっている。

